

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **87** 2024
冬号



大島一博 厚生労働事務次官

奈良県立医科大学 理事長・学長
一般社団法人MBTコンソーシアム理事長
総井裕司



Special Feature

理事長・学長からのメッセージ vol.30
大島一博 厚生労働事務次官、
吉永小百合さんを迎えて
難病克服支援MBT映画祭を開催しました



Contents

特集	理事長・学長からのメッセージ vol.30	3
	難病克服支援MBT映画祭を開催しました	4
	研究紹介	6
	MBT研究所だより (第31報)	8
	図書館だより	9
	国際交流センターだより vol.14	10
	働き方改革だより	12
	未来への飛躍基金だより	14
	先端医学研究支援機構だより	15
	看護部の紹介	15
Topics	「社会医学系専門医」について	16
Campus News	奈良県立医科大学 奈良健康フェア 2023 を開催しました	17
	臨床英語特別講座“Academic English”を開講	17
	ジャパンヘルスケアベンチャーサミット 2023 に出展しました	18
	令和5年度奈良県立医科大学白樺生祭を開催しました	18
	奈良県防災総合訓練にMBTブースを出展しました	18
	同志社女子大学・奈良県立医科大学学術交流に関する包括協定に基づく合同講演会を開催しました	19
	奈良県立医科大学附属病院ならびに奈良県内全病院フルマッチ達成！	19
	湘南アイパークでMBTの講演を行いました	20
	けいはんな映画劇場でMBT映画祭の作品を上映しました	20
	MBT研究所運営会議を開催しました	20
	令和5年度第1回キャンパスミーティングを開催しました	21
	本学医学科6年生今津君筆頭著者の論文がJournal of the American College of Surgeons誌に掲載されました	21
	HANAZONO EXPOにMBTブースを出展しました	21
	当院臨床研修体制がJCEP(卒後臨床研修評価機構)の訪問調査を受けました	22
	第68回日本口腔外科学会総会・学術大会を開催しました	22
	「女性に対する暴力をなくす運動」の啓発活動を実施しました	22
	Nara Medical University Model United Nations Team Recognized as One of the World's Top	
	模擬国連世界大会ドイツ大会報告：2大会連続「優秀代表団賞」受賞	23
	株式会社三笠様からレッグウォーマー 4000足をいただきました	24
	「第3回Challenge 万博【いのち輝く未来社会】へ」に出展しました	24
	よい仕事おこしフェアに出展しました	24
	奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が第1回関西テックグランプリで基調講演を行いました	25
	研究結果を論文に出版しました	25
	奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が奈良県庁を表敬訪問	25
	医学部医学科「白衣授与式」を行いました	25
	第5回連携登録医のつどいを蔵書会館で開催しました	26
	令和5年度奈良県立医科大学医学教育フォーラム(FD)を開催しました	26
	西日本医学生学術フォーラム2023でポスター発表しました	26
	人材交流在宅看護教育プログラムの履修証明書を授与しました	27
	韓国世宗特別自治市との医療国際協力を協議	27
	高大連携教育を推進しています	27
	奈良臨床漢方医学セミナー(耳鼻咽喉・頭頸部・口腔外科編)を開催しました	28
	軟骨伝導イヤホンが韓国の自治体で採用されたことを知事に報告	28
	イノベーションストリームKANSAIに出展しました	28
	本学の障害者雇用の取り組みが東洋経済オンラインに取り上げられました	28
	石川県へ派遣した附属病院DMATチームが帰還しました	29
Winner Report	第241回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞を受賞しました	30
	令和5年度ハイパーサーミア学会優秀論文賞を受賞しました	30
	令和5年度(第17回)加齢皮膚医学研究基金ロート賞を受賞しました	30
	NeuroSpine Congress 2023にてLami Kim Young Soo Awardを受賞しました	30
	奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」がバイオテックグランプリ2023で最優秀賞を受賞	31
	第85回日本血液学会学術集会で優秀ポスター賞に採択されました	31
	第93回日本感染症学会西日本地方学術集会・第71回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会の学部生セッションで優秀賞を受賞	31
	日本口腔外科学会総会・学術大会で優秀ポスター発表賞を受賞しました	31
	令和5年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました	32
	第47回リザーバー&ポート研究会 特別賞受賞	32
	第67回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会において優秀演題賞を受賞しました	32
	日本臨床神経生理学会で優秀論文賞を受賞しました	32
	第53回日本臨床神経生理学会学術大会で最優秀演題賞を受賞	33
	西日本医学生学術フォーラム2023ポスター部門で優秀賞、敢闘賞を受賞しました	33
	細井理事長・学長が一般社団法人日本オーディオ協会の「音の匠」に選出されました	33
	第242回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞(優秀演題賞)を受賞しました	33
	令和5年度 外部資金獲得状況	34
寄附者ご芳名	「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございます	39
	メディア掲載情報	40
	編集後記	40

奈良医大の存在感を高める重点戦略

理事長・学長 細井 裕司

奈良医大は、奈良県の評価委員会の高い評価だけでなく、マスコミに奈良医大の記事が多く取り上げられていることからわかるように一般社会からも高く評価されています。これは、本学すべての教職員、学生、卒業生の方々のご努力とご協力の賜であり、心から感謝申し上げます。

奈良医大の全国における存在感は高まってきましたが、さらなる向上のために、不断の改革が必要です。新たな重点項目も設け改革を続けますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

すでに着手しているがなお加速する重点戦略（継続事業）と新規の重点戦略（新規事業）のうちのいくつかを以下に述べます。

既着手の重点戦略（継続事業）

1) 難病克服支援、MBT映画祭

本年1月13日東京大手町の読売ホールで吉永小百合様、厚生労働事務次官大島一博様にお越しいただき、MBT映画祭を開催しました。44編の応募作品の中から7編を上演し、著名映画監督の篠原哲雄様（今年5月に「ハピネス」が封切られます。）を審査委員長として、最優秀賞などを決定し表彰しました。これらは首都圏の新聞に掲載されました。吉永様には本映画祭の主旨に賛同いただき、無償で協力いただきましたことに感謝申し上げます。

2) アントレプレナーシップの醸成

コシノジュンコ様に6人目のMBT特命教授に就任いただきました。「医科大学の学生は医学、看護学を学ぶことは当然だが、それ以外にも、幅広い教養を身につける必要がある。」との考えから、他分野の方々に奈良医大の教授に就任いただき、講義をお願いしています。コシノ様には1月15日に講義を行っていただきました。

3) 学生のレベルの向上

前期入学試験の改革を行った結果、河合塾発表の入試難易予想ランキング表において2ランク上がって国公立理科系で12位となりました。ちなみに、1位から12位のランキングは、東大理Ⅲ、京大医、奈良医大（後期）、医科歯科大医、阪大医、東大理Ⅰ、東大理Ⅱ、名大医、神戸大医、九大医、福井大医（後期）、奈良医大（前期）です。

4) 卒業生の奈良県定着

2019年に奈良県は全国で初めて県単位のマッチング率100%を達成しましたが、2023年に再び100%を達成しました。マッチングの長い歴史で、奈良県のみが100%を達成しています。

新規の重点戦略（新規事業）

1) 基礎医学者の養成

令和4年度に前期研修に基礎研究医枠が設定されました。30大学の附属病院に1名ずつ割り当てられましたが、科学研究費獲得額に応じて、東北大、千葉大、慶応大、東京医科歯科大、日本医大、京大、阪大、大阪市大（現公立大）、大分大と共に、本学には2名が割り当てられました。その後多くの大学で定員割れが生じましたが、本学は希望者が多く定員をオーバーすることもありました。このことは、本学の学生には、将来基礎医学の専攻を希望する者が多いことを表しており、本学が優秀な基礎医学者を多数輩出することは本学の存在感を高めるものと考え、基礎医学者の養成を重点項目にすることにしました。

2) オートファジー・抗老化研究センターの設立

2016年大隅良典・東京工業大学栄誉教授がオートファジー（細胞内部の自食作用）の仕組みの解明によりノーベル賞を受賞されました。昨年本学の生化学講座の教授に就任されました中村修平教授はオートファジーの第一線の研究者で有力誌に多数の論文が掲載され、獲得グラント、受賞も多くあります。中村教授を中心に臨床系、基礎系の多くの講座と連携したオートファジー・抗老化研究センターを設立し、奈良医大を抗老化のメッカにしようと考えました。4月16日には大隅教授をお招きしオートファジー・抗老化研究センターの設立講演会を行います。

3) 新病棟建築を見越しての高さ制限の緩和

現在奈良医大の敷地においては、31mの高さ制限があります。31mはいつ、だれが、どのような根拠で決められたかもわからないほど古くからあります。今まで、新しい建物を建設するにあたって31mという制限のもとに設計されてきました。この高さ制限を建物の設計が始まる前に緩和したいと橿原市に働きかけています。私は、景観より人の命の方が大切だと考えています。そして、新駅ができることを生かして、奈良医大を核とした「学術研究都市構想」を提唱しています。

難病克服支援MBT映画祭を開催しました

2023年1月13日(土)によみうり大手町ホール(東京)で、大島一博厚生労働事務次官、吉永小百合さんを迎えて、難病克服支援MBT映画祭を開催しました。

3回目の開催となった本映画祭は、本学が推進する難病克服キャンペーンの一環であり、希少な疾患ゆえに社会から孤立しがちな難病患者らの状況を映像作品で伝え、理解を広げるために開催しています。今回は300名を超える大勢の方にご参加いただきました。

昨年9月～11月に全国から短編映像作品を募集し、44本集まった作品の中から入賞作品を7本選抜し、映画祭当日に上映するとともに厳選な審査を行い受賞作品を選定しました。審査員には映画監督の篠原哲雄監督、としおかたかお監督、西尾孔志監督をはじめ本学医療従事者らも参加し、下記のとおり受賞作品が決まりました。

受賞作品	作品監督指名	作品タイトル
最優秀作品賞	マキタカズオミ	産むということ
優秀作品賞	磯部和弥	イスラム 君と歩む (Islam: We walk with you)
特別賞	相馬雄太	サンクスレター



最優秀作品賞を受賞されたマキタカズオミさん(中)



審査風景



トークセッション



また今回は特別上映として吉永小百合さんが主演を務めた「最高の人生の見つけ方」を上映いたしました。上映前にはなんと、吉永小百合さんご本人から舞台挨拶をしていただき、MBT映画祭にエールを送っていただきました。その他、監督たちによるトークセッション、授賞式を行い盛況のうちに終わることができました。今後も毎年映画祭を開催していく予定です、何卒応援よろしくをお願いいたします。



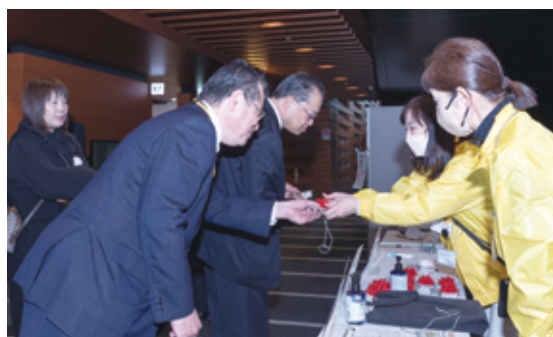
学長



大島一博厚生労働事務次官による来賓挨拶



来場者受付



来賓受付



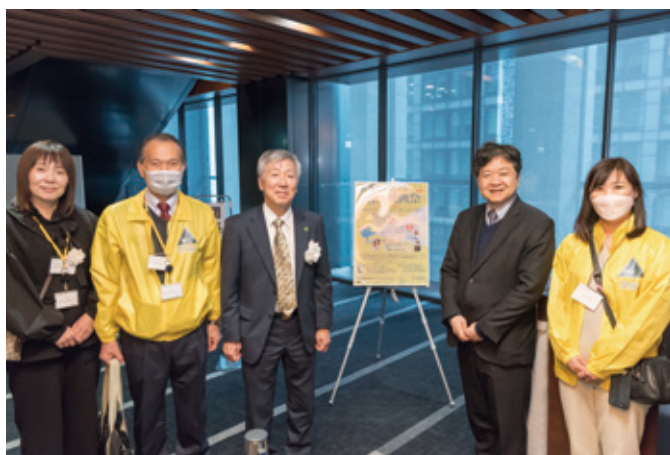
吉永小百合さんの舞台挨拶



特別上映「最高の人生の見つけ方」



学長と大島厚生労働事務次官



大島厚生労働事務次官と



審査委員と運営委員

口腔がんと口腔顎顔面再建に取り組んで

口腔外科学 教授 桐田 忠昭



私は長らく口腔悪性腫瘍について、臨床的及び基礎医学的研究を教室の主要な研究テーマの一つとして行ってきました。私の研究の一端についてお示しさせていただきます。

まず、臨床面の研究については、進行口腔がん切除後の効果的な口腔顎顔面再建法の開発と機能回復に重きを置いて取り組んできました。そして、中でも特に下顎再建に重点を置いてきました。口腔悪性腫瘍切除に伴う下顎再建においては、主にその切除範囲において再建法は異なってくることは言うまでもありません。また、患者の年齢や全身状態、癌の進行度、軟組織進展の範囲や各施設の考え方によってもその選択は、さまざまです。多くは血管柄付遊離骨移植（腓骨、肩甲骨、腸骨等）が第一選択とされ、当科でも血管柄付き腓骨皮弁を第一選択として用いてきました。そして、整容（形態）と機能の回復を最大限目指すことを基本としています。その際に考慮すべき点については、整容面においては、左右の対称性、下顎角部の形態と位置、オトガイ部の形態回復と mandibular arc の回復が重要であり、機能面では顎関節機能と occlusal arc を含めた咬合の回復、リップサポートとなると考え、区域切除時においては、下顎切除両骨端の位置を正確に回復させ、連続性を維持する必要があります。また、再建部位や切除後の強度面においては、下顎骨切除範囲と残存骨高径を考慮した再建方法の選択も必要となり、多角的な視野に基づいた最適な方法を選択します。そのため、われわれの教室では、切除手術前に再建の際に用いる血管柄付遊離腓骨を理想的な形態に形成し、配置できるよう骨配置シミュレーションソフトを京都大学工学部と開発し、それをを用いて 3D モデルと有限要素解析により、整容性と咀嚼や咬合力に耐える力学強度評価を行い、実際の手術に応用し臨床評価を行っています。現在、いずれの応用症例においても導入以前と比較し、整容的かつ機能的、力学的に極めて良好な結果が得られるとともに術者および患者満足度

も非常に高い結果が得られています。今後はさらに症例を重ね、より高いレベルでの下顎再建ができるよう、改善を図っていきたいと考えています。

基礎研究においては、口腔悪性腫瘍の新たな治療戦略についての研究で、DNA 修復から紐解く口腔がんの治療戦略です。放射線治療や抗悪性腫瘍薬によって DNA に損傷がもたらされた際に働くチェックポイントとして、ATM-Chk2-p53 経路と ATR-Chk1-Cdc25A 経路の大きく 2 つのシグナル伝達経路が考えられています。多くのがん細胞においては、ATM-Chk2-p53 経路は機能低下していると考えられています。そのため放射線治療や抗悪性治療薬などで DNA 損傷を引き起こし、さらに ATR-Chk1-Cdc25A 経路を阻害することで特異的に細胞死を効率的に引き起こすことが可能と考えられます。そこでわれわれは、口腔がんにおいて ATR 関連経路の働きを阻害剤および分子生物学的手法により抑えることで、既存の抗悪性腫瘍薬の効果を増大するのか、また放射線や温熱処理により効率的に細胞死を誘導できるのかの検討を進めており、放射線や抗悪性腫瘍薬による分子標的の同定および治療効果促進について、その詳細なメカニズムの解明に向け、プロテオミクス解析や腫瘍移植系実験を進め取り組んでいます。

また、最近大きな問題となっている薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ) の治療においては、われわれはゼラチン等に bFGF などの成長因子を組み合わせ、抜歯窩に填入することで歯肉、歯槽粘膜の再生を促進させ、顎骨壊死を有効に治療もしくは予防できることを発見し、動物実験でも確認しています。これらの知見は、今後難治性の顎骨壊死や骨髄炎に対する治療薬としても応用できるのではないかと考え、さらに動物実験を重ねデータの集積を行っており、創業に結びつけられるよう研究を行っています。

保健師として住民の健康課題に向き合って



公衆衛生看護学 教授 城島 哲子

公衆衛生看護学は地域住民の健康増進を目指した個人と家族、集団・地域社会に対する保健師活動を科学する領域です。活動内容は高齢者から乳児まで、個人・家族から集団への支援、地区診断・地区活動、地域組織活動、ケアシステムの構築、健康危機管理の体制整備、地域活動と施策の評価、人材育成など多岐にわたります。行政保健師として、あるいは大学教育に携わってから取り組んできた研究の一部を紹介します。保健所勤務時代に年間出生数2千人を超える母児データを活用した調査研究を始めました。お母さんたちの育児の困難さに着目し、3歳児健康診査票に母性意識調査票を同封して郵送しました。母親の成育歴が母親の自己像に影響しており、実母の子育てを否定した母親ほど子育てに実母を頼るという興味深い結果が得られました。また、発達の遅れや問題傾向を持つ子どもの母親には支援者が少ない傾向がありました。(城島：1989)。その後、民間病院の健康相談室の保健師として勤務する機会があり未熟児のお母さんに出会いました。そこで介入研究としてNICU入院児の母親に「希望が持てる、元気が出るグループ」を毎週、90分、4カ月間続けました。参加者の反応から、主体的にグループに参加すること、他の母親の役に立ったという実感が高められることで自尊心が高められることがうかがえ、個別支援とは違ったグループ支援の可能性を見出しました。(城島：1995-1996)。静岡県で大学教員となり、他領域看護教員と共同でNICUにおけるデベロップメンタルケアや家族支援の研究に取り組みました。NICUに面会に来る母親の児に対する感情(ボンディング)の変化を観察しました。母親の感情の転換の契機となっているのは「抜管」や「抱っこ」のイベントであり、そこには多くの看護援助が伴われていました。研究のなかで両親との並行面接を行うことがあり、家族カウンセリング的な介入の経験となりました(城島：1998)。このテーマはアクションリサーチとして静岡県西部地域に拡大

させ、保健所・市町村との連絡会議を重ねてハイリスク児のケアネットワークを構築しました。(平成12)。青森県立保健大学の時代に家族看護学に出会いました。それまでは家族は患者の資源という見方が主流でしたが「システムとしての家族」という視点によって家族理解と支援方法が広がりました。厚労省のモデル事業として家族看護研修会を開催し、参加者のベテラン看護師たちが家族面接を学び実践しました。事例を共有し臨床で使える看護技術であることを証明しました(城島：2001-2003)。

奈良医大においては基礎医学教室の協力を得た実験研究にも取り組んでいます。坂東准教授は臨床病態医学濱田前教授の支援を得て尿中のコチニン測定を行うタバコ研究を継続しています。幼児の家庭内喫煙者によるsecond-hand smokeの影響(坂東：2014)では、学童期における家庭内Second-Hand Smokeに関する時系列分析(坂東：2019)を明らかにしました。現在は、出産後の母親の再喫煙防止に関する研究を進めています(坂東：2023)。また、堀内講師は微生物感染症学教室の指導のもと学位論文として、奈良県南部の地域住民地生活環境におけるピロリ菌の蔓延実態に取り組み陽性率を明らかにしました(堀内：2020)。現在は、薬剤耐性菌の分子遺伝学的解析にも参加しています(堀内：2023)。他には産業実習の協力企業から依頼を受け、社員の定期健康診断および胃がん検診の有所見項目とその関連要因の検討を行っています。各事業所と職種による健康特性による健康課題の違い、産業保健師のサポートへのアクセサビリティの影響がみられるという健康管理体制の課題が明らかになりました。今後も、事業所保健師と共同で継続的なデータ解析を行う予定です(坂東、他：2022-2023)。

1. 大型イベントへの出展

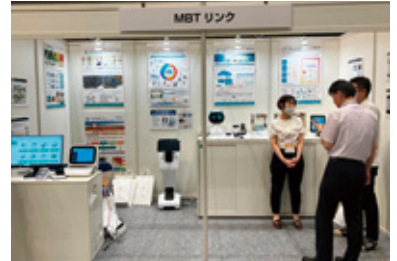
新型コロナが5類に移行し、首都圏を中心とした大型イベントへの出展等のMBT活動が活発化しました。

(1) 日経クロステックNEXT2023

2023年9月27日、28日「日経クロステックNEXT 2023」が、東京国際フォーラムで開催され、梅田智広研究教授 (MBTリンク (株) 代表取締役社長) がデジタルヘルス分野のキースピーカーとして講演しました。MBTリンクは展示コーナーにも出展し、心電図や血中酸素濃度他各種バイタルを無意識下で計測できる指輪型やブレスレット型の新型センサーや、デジタル救急箱、追従型/卓上型ロボ2種、電力センサーなどの展示およびデモを行いました。



講演する梅田研究教授



MBTリンク社展示ブース

(2) 奈良県防災総合訓練

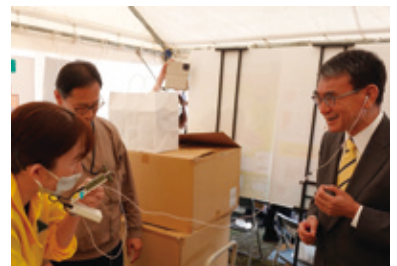
2023年10月22日、奈良県防災総合訓練が吉野運動公園で開催されました。奈良医大とMBTコンソーシアムは、通信・防災事業会員6社および奈良先端大の支援を得てスターリンク通信を活用した災害現場の通信リカバーデモと防災関連商品・サービスを展示しました。立ち寄られた山下知事には、防災総合訓練に毎年参加して、防災アイデアを奈良県防災関係者に提案していることを説明しました。



山下知事への説明

(3) HANAZONO EXPO 2023

2023年11月3日、4日、東大阪市の花園中央公園で「HANAZONO EXPO 2023」が約10万人の参加のもとで開催されました。奈良医大とMBTコンソーシアムは、「未来の聞こえ・健康技術の体験」のタイトルでブース展示を行いました。ブースには、①未来の聞こえ体験コーナー「軟骨伝導イヤホンやヘッドホン」、②健康技術体験コーナー「認知症予防に有効なコミュニケーションロボットKebbi AIR」、健康TVゲームの2つの体験コーナーを設けました。また、奈良医大の医学知識を基に開発商品化された商品の展示即売を実施しました。河野太郎デジタル大臣が、奈良医大ブースに立ち寄り、集音機付き軟骨伝導イヤホンの体験をされました。



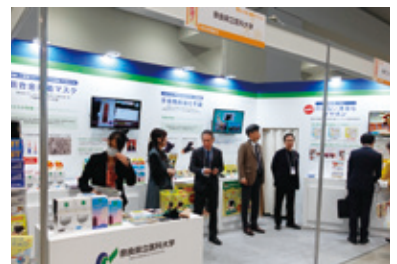
軟骨伝導イヤホンを体験される河野デジタル担当大臣

(4) 2023“よい仕事おこし”フェア

2023年11月21日、22日、「2023“よい仕事おこし”フェア」が東京ビッグサイトで開催されました。奈良医大・MBTコンソーシアムとよい仕事おこしフェア実行委員会(事務局：城南信用金庫)は2023年2月に連携協定を締結しております。「よい仕事」をおこすビジネスマッチングイベント「2023“よい仕事おこし”フェア」には政界や全国の自治体首長らの来賓多数が駆けつけました。奈良医大とMBTコンソーシアムは、商品化企業の支援を得て、①細井理事長が発見した軟骨伝導を活用した集音機付きイヤホンやヘッドホン、②コロナウイルス不活化に有効な銅合金蒸着マスク、③高齢者のフレイル予防等に有効な手指機能強化手袋の展示デモを行いました。また、細井理事長はステージで「500年ぶりの発見『第3の聴覚・軟骨伝導』」との演題で講演しました。



展示内容を説明する細井理事長



展示ブース全景

2. 細井理事長が「音の匠」に

2023年12月6日、日本オーディオ協会は細井理事長を「音の匠(たくみ)」に選定し、顕彰式を東京のKANDA SQUAREで執り行いました。「音の匠」は音・音楽・オーディオなどの分野で卓越した能力を持ち、音を通じて文化創造や社会貢献をされた個人または組織の方々を対象とするものです。受賞理由は軟骨伝導を発見し、聞こえに関する新たな可能性を示すとともに音響機器への実用化にも注力されたからです。ちなみに2022年度の「音の匠」は、世界的ピアニストの反田恭平さんでした。今後の展開が大いに期待されることとされております。

『一部未購読電子ジャーナル全文入手費用無償サービス』ご利用案内

サービスの概要

対象雑誌に限り、全文PDFファイルの入手費用を図書館が負担いたします。専用メールアドレスにお申込み後、原則として3営業日以内に文献をお送りします。1名あたり1日5文献まで受け付けておりますが、年間の規定数に達した出版社は、年度途中であってもサービスが中断または終了となります。

詳細は図書館ホームページ(図書館ホーム>研究サポート>全文入手費用無償サービス)をご参照ください。

対象となる雑誌

1) Elsevier (ScienceDirect)、Karger、Taylor & Francis、Bentham Scienceの4社が発行する未購読雑誌、2) 2014年度以降に購読を中止した雑誌(図書館ホームページに記載)がサービス対象です。

ただし、冊子体を図書館で所蔵しているもの、他の契約先から電子版をご入手可能なもの、PDFが未公開の最新号などは対象外となります。

ご依頼方法

下記の内容をご記載のうえ、本サービスお申込み専用メールアドレスまでお送りください。最も多いご記載漏れが、実際に文献を利用される研究者の職員番号です。

- 1) 文献を利用される研究者の職員番号 または 学籍番号
- 2) 研究者のご所属 または 学科・学年
- 3) 研究者のご氏名
- 4) 文献書誌事項(著者名、論題、雑誌名、発行年、巻号、ページ、(PubMedの場合はPMID))
- 5) 文献送付先のメールアドレス(お申込みの際のアドレスと異なる場合のみ)

書誌事項の引用方法

① PubMed 奈良医大専用入口

PubMedを利用される場合は奈良医大専用入口からお入りください。書誌情報の隣に「奈良医大 Find Full Text」が表示されるようになり、便利です。

奈良医大附属図書館トップページ>文献検索>

PubMed(MEDLINE)【奈良医大専用入口】

※ 次回以降のために、ブックマーク(お気に入り)へのご登録をおすすめします。



PubMed
奈良医大専用入口

奈良医大 Find Full Text

- ② 書誌事項コピーの最も簡単な方法(PubMed、CINAHLなど一部のデータベースのみ)

「奈良医大 Find Full Text」リンク先最上部に書誌事項が表示されます。ここには必要最低限の情報しかありませんので、1文字も欠けることのないようにコピーしてください。



「奈良医大 Find Full Text」からの文献をご確認

★特に重要★ 対象外文献のご確認

1. PubMed 奈良医大専用入口から文献検索 → 書誌情報表示
[奈良医大 Find Full Text] アイコン
2. 文献書誌情報の隣「奈良医大 Find Full Text」をクリック
「電子ジャーナルを読む」右の[GO] → 電子版PDFをダウンロード可能(サービス対象外)
「奈良県立医科大学OPACで所蔵を確認」右[GO] → 冊子体の図書館所蔵情報をご確認(所蔵がある場合はサービス対象外)
3. 書誌情報に戻り「奈良医大 Find Full Text」の上にある出版社リンクをご確認
前述の「対象となる雑誌」1) 4社および購読中止となった雑誌(図書館ホームページに記載)のみ本サービス対象
4. 上記1-3でご入手できなかった場合のみ、以下の手順で学外の有料複写をご依頼ください。
「奈良医大 Find Full Text」最下部「文献複写を申し込む」右[GO] → Myないとログイン → 必要事項ご記入



誤ったご依頼の例と改善策

- 1) 文献を利用される研究者の職員番号のご記載漏れ
ご氏名、職員番号のご記載が秘書さんのみの場合は、秘書さん1名からのご依頼として処理するため、1日5文献までに制限しております。しかし、実際に文献を利用される研究者のご氏名、職員番号を併記していただければ、各研究者からの個別のご依頼と解釈し、**1名あたり**1日5文献までとさせていただきます。
正しいご依頼メールの例
教授のご氏名、職員番号：文献①～文献⑤
助教のご氏名、職員番号：文献①～文献⑤
院生のご氏名、学籍番号：文献①～文献⑤
メール送信元：秘書さん
この1通のメールで、3名の研究者からの個別のご依頼として、1日合計15件まで受け付けさせていただきます。

2) 対象外文献のご依頼

上記「【特に重要】対象外文献のご確認」をご参照ください。

3) 書誌事項の誤り(ご記載漏れ、入力ミス)

書誌事項は手入力せず、コピーしてください。また、特に最初と最後の数文字が欠けていることがありますので、ご依頼前にコピー範囲の再確認をお願いいたします。

まとめ

学術雑誌の価格高騰への対策と、研究者の利便性確保の両立を目指した『一部未購読電子ジャーナル全文入手費用無償サービス』を紹介させていただきました。文献をお探しの際には、非常に便利なツール「奈良医大 Find Full Text」とともにご利用ください。

国際交流センターだより vol.14

海外リサーチ・クラークシップ壮行会を開催しました（12月21日）

2024年1月4日から3月5日まで、リサーチ・クラークシップのため海外の研究室に滞在中の医学科2年生8名が、2023年12月21日に開催された壮行会で、留学への意気込みを述べました。

*リサーチ・クラークシップとは、医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究施設での研究に参加することにより、リサーチマインドを育てることを目的としています。



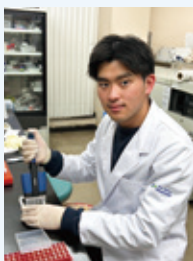
医学科2年 平岡 崇秀

私はベルギーのコルトレイクにある、Laboratory for thrombosis research, KU Leuven Campus Kulak Kortrijkで2ヶ月間実習をさせていただきます。

この研究室は血液に関する研究を行う生化学の研究室で、主に von Willebrand disease (VWD) や Thrombotic thrombocytopenic purpura (TTP) といった病気についての研究をされています。

自分が研究室に行った際には、ADAMTS13 と TTP 患者さんの自己抗体が結合した免疫複合体を検出する方法を確立し、その検出量と初発時の臨床経過との関連解析を行って臨床症状・予後に及ぼす影響を推測することを目的として尽力します。

また、奈良県立医科大学では輸血部に所属させていただいており、事前学習として ELISA を用いて ADAMTS13 の活性を測定したり、ラボミーティングに参加させていただいたりしていました。



医学科2年 伊藤 晴加

私はイギリスのリーズ大学にある Astbury Centre for Structural Molecular Biology で2か月間実習を行わせていただきます。派遣先の Radford 教授の研究室では、最先端の機器を用いて蛋白質の構造や凝集のメカニズムについて調べ、アミロイド病治療のヒントを得るための研究が行われています。私は現地で蛋白質のフォールディング過程を見る実験等を行う予定です。そのための準備として、本学の未来基礎医学では先生方の手厚い指導のもと、目的蛋白質を作製し、蛍光分光光度計等の物理化学的測定機器を用いて蛋白質の安定性評価を行いました。この度いただいた貴重な機会を十分に活用し、派遣先では予定している研究だけにとどまらず、多くのことを吸収したいと思っております。



MESSAGE

生理学第二 教授 堀江 恭二

壮行会で学生さんのお話を聞いて、ひとりひとりが明確な目標を掲げて準備を進めてきたことが伝わり、実に頼もしく感じました。また、海外派遣に際して、事前研修でお世話になった先生方や事務の方々のみならず、未来への飛躍基金でご支援くださった多くの方々への感謝の気持ちを大切にしていることも伝わってきました。貴重な機会を活かして、大いに学んでください。ひと回り大きくなって帰ってくることを楽しみにしています。



未来基礎医学 准教授 森 英一郎

コロナの感染拡大のために中断していた海外でのリサクラが、今年度から再開となります。コロナ感染拡大によって、医学研究の重要度が社会的に再認識されたのではないのでしょうか。皆様は今、学内の選抜過程と事前研修などの準備期間を経て、渡航先での研究活動に胸を躍らせていることかと思えます。奈良医大のみならず、日本人の代表としての意識を持って、頑張ってきて下さることを期待します。海外の研究室での経験を、リサクラ期間を終えて戻ってきてからの活動に、是非とも活かしてってください。



2023年度 海外リサーチ・クラークシップ留学先（7施設8名）

University of Texas Health San Antonio (USA)	大平 雅也	National Taiwan University Hospital (Taiwan)	有野 公人
University of Alberta (Canada)	小西 菜々子	National University of Singapore (Singapore)	森田 大智
University of Leeds (UK)	伊藤 晴加	KU Leuven Campus Kulak Kortrijk (Belgium)	佐久間 隼人
University of Michigan Medical School (USA)	和出 陽南		平岡 崇秀

「第9回 英語で学ぶ医学・看護学セミナー」を開催しました（医学科2年生対象・9月26日）

生理学第二 教授
堀江 恭二



橋元先生は、米国クリーブランド・クリニックで、肝移植部門のディレクターとして多大な業績をあげておられます。今回、はじめて本学をご訪問くださり、肝移植の歴史と将来の方向性についてお話いただきました。学生からも積極的に英語で質問がなされ、ご講演後に橋元先生も感心しておられました。橋元先生が強い信念の元にこの分野を開拓されている様子は、学生の皆さんがキャリアパスを描く上でも参考になったことと思います。

クリーブランドクリニック（アメリカ）
橋元 宏次 先生



I want to express my gratitude for the opportunity to speak at Nara Medical University. It was an honor to address your medical students and share insights on liver transplantation that I have engaged in for my entire career. I am also grateful for the warm welcome and hospitality extended to me during my visit. Your team's professionalism and attention to detail were greatly appreciated.

The engagement and enthusiasm of your students were truly remarkable. Their thoughtful questions and discussions reflected their dedication to the field of medicine. I believe that these young minds have the potential to make significant contributions to the medical community. I will be excited to witness how your medical students grow and shine in the future.

Finally, I look forward to future collaboration or interaction with Nara Medical University. Please convey my regards to the faculty and students. Wishing Nara Medical University continued success in nurturing the next generation of medical professionals.



会場の様子



学生からの質問にも、丁寧にお答えいただきました



「第6回 外国人留学生との交流会」を開催しました（12月5日）

外国人留学生との交流会(Global Hour)を、NOFIS (NMU Organization For International Students & doctors) との共催で開催しました。

参加の留学生は、整形外科のドクター5名（タイ1名、フィリピン1名、中国3名）、放射線科のドクター1名（フィリピン）、学生6名（ドイツ5名、メキシコ1名）でした。今回は、本学医学科5年生が「What is Resilience?」、ドイツとメキシコの留学生たちが「Bitcoin」、「Göttingen Christmas Market」、「Mexico」というテーマでそれぞれプレゼンを行いました。どのプレゼンも興味深く、笑いあいの和やかな雰囲気の中、交流を深めることができました。



令和5年度 第2回若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定（9月26日）

令和5年度第2回 若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の3名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
腎臓内科学	医員	西本 雅俊
麻酔科学	診療助手	大井 彩子
放射線診断・IVR学	医員	中野 亮汰

2024年4月～医師に労働時間上限規制適用開始

▶労働時間数上限は月155時間／年間1860時間

【参考】一般の職員の労働時間数の上限は月30時間／年300時間

診療に従事する医師は、職員と比較して約6倍の時間数となる労働が認められることとなりますが、長時間労働は疲労回復に必要な睡眠時間・休養時間を減少させ、重大な健康障害を引き起こす可能性があるため、従来よりも強化された健康確保措置（追加的健康確保措置）が義務化されます。



▶勤務間インターバル・代償休息が義務化

☀️通常の日勤・🌙宿日直許可のある宿日直（※1）

→始業から24時間以内に9時間の連続した休息を確保

- ❌ 日勤後帰宅した後に、呼出対応で出勤した場合
- ❌ 勤務終了が23時30分を超過し、翌8時30分勤務開始の場合

🌙宿日直許可のない宿日直＝勤務（※2）

→始業から46時間以内に18時間の連続した休息を確保

- ❌ 夜勤明けに昼までに業務が終了しなかった場合
- ❌ 許可のない外勤先の宿日勤務の後、通常勤務があった場合

まずはインターバルを守れる体制づくりが必要。守れなかった場合、翌月末までに必ず代償休息！



初期研修医にはより厳しい基準の制限が適用。48時間以内に24時間の連続した休息が必要！明けは必ず帰宅！

診療科ごとに夜間・休日の勤務体制は違います

※1：腎臓内科、呼吸器内科、血液内科、脳神経内科、脳神経外科、胸部・心臓血管外科、整形外科、口腔外科、眼科、小児科、皮膚科・形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線治療科、腫瘍内科、感染症内科が取得済みもしくは取得予定

※2：上記以外の診療科・中央部門・ER対応における夜間休日勤務（2023年12月時点の見込み）

▶長時間労働医師の面接実施を義務化

- 月80時間を超える医師を対象に月100時間を超える前に実施
- 長時間労働医師は自己診断チェックリストで疲労蓄積度を回答
- 面接講習を修了した他科の医師によるWEB面接
- 必要に応じ就業上の措置（月155時間超は必須）

面接実施医師・対象医師ともに確実に面接時間の確保・実施を！

必要な面接を実施せずに月100時間以上の時間外休日労働をさせた場合には、医療法違反、労働基準法違反となります。



2035年度末には上限時間が半減(年間960時間)

▶ チーム医療：タスクシフト／タスクシェア



▶ 業務改善・効率化を進めていきましょう

① 会議やカンファレンスの工夫

- 原則勤務時間内に開催、1時間以内で実施、参加者を厳選して実施
- リモートや配信等を活用し、時間や場所にしばられない工夫を
- 会議の主な目的が情報共有である場合は会議の開催自体を見直し

② ITツールの活用

- シフト管理ツール等を活用し、勤怠管理に係る負担軽減を図る
- 音声入力ツール等を活用し、診療時間の短縮を図る取組を検討中

未来への飛躍基金だより

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご支援をいただき心から御礼申し上げます。皆様からのご寄附は、教育、研究及び診療活動への支援、大学及び附属病院の施設整備、大学と社会のつながりへの支援等、幅広く活用させていただいております。

大学院医学研究科博士課程入学者に対する奨学金（2022年度活動報告より）

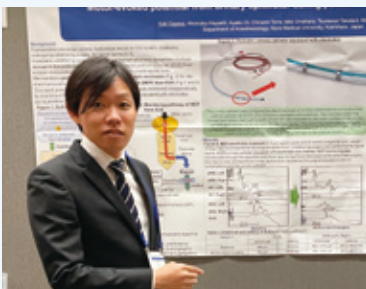
優秀な大学院博士課程修了者及び学位取得者を広く社会に、より多く輩出することを目的とした奨学金制度です。入学料及び授業料相当額を基金から貸与しました。

ビッグデータを用いた臨床研究に取り組む

公衆衛生学 小川 裕貴

本奨学金のご支援のおかげで、2022年度で公衆衛生学の博士課程を修了し学位を取得いたしました。麻酔科医、集中治療医として大学病院で勤務している私ですが、公衆衛生学講座では主に診療報酬情報を集積した大規模データベースを用いた臨床研究に取り組んでおりました。本学の公衆衛生学講座は、いわゆるビッグデータ研究の分野で先進的な施設ですが、さらに今村教授の人脈により東京大学や摂南大学などとの複数の共同研究に携わる機会を得て、専門的なデータ解析の技術を学ぶことができました。

将来的に夢である海外での研究活動も視野に入れているなかで、経済的な不安を拭いきれずにおりましたが、本奨学金制度のおかげで研究活動に集中することができました。本奨学金の多大なるご支援に、心より感謝申し上げます。今後も社会に貢献する研究に携わるべく、より一層精進してまいります。

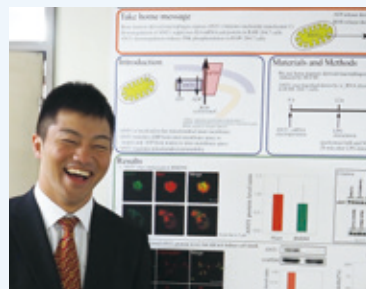


パーキンソン病の病態理解を目指して

機能形態学 中原 一貴

私は本奨学金のご支援のもと、機能形態学講座、和申教授の元で博士課程の指導をしていただいております。私は研究医を志しており、キャリアの早い段階で大学院に入学したいと考えておりました。本奨学金のおかげで大学院に通う上での経済的な不安は軽減され、安心して大学院に進学することができました。私は研究者としてのキャリアを考慮して初期臨床研修を中断するという大きな決断をいたしました。本奨学金のような支援がなければこのような決断はできなかったと考えております。

機能形態学講座では頻度の高い神経変性疾患であるパーキンソン病の病態理解を目指して、モデルマウスを用いて脳内における遺伝子発現の解析を行っております。本奨学金のご支援に感謝するとともに、人類の知に貢献できるような世界的な研究者として活躍できるように今後も努力して参ります。



紺綬褒章について

本学は、内閣府賞勲局から紺綬褒章「公益団体」として認定を受けています。基金に500万円以上のご寄附をいただいた方（個人）及び1,000万円以上のご寄附をいただいた団体は、紺綬褒章の授与の対象となります（納納可能）。

授与申請については本学の取扱基準に基づいて行いますので、詳しくは総務広報課までお問合せください。



寄附者銘板について

ご寄附いただいた方々への感謝の気持ちを込めて、顕彰制度を設けています。寄附額が30万円以上（複数回のご寄附をいただいた場合は合計額）の方々のご芳名を刻んだ銘板を附属病院1階に設置しています。

（ゴールドプレート）個人・法人 1千万円以上

（シルバープレート）個人・法人 100万円以上

（ブロンズプレート）個人 30万円以上／法人 50万円以上



寄附者ご芳名の銘板（附属病院1階）

【奈良県立医科大学 総務広報課】
TEL : 0744-22-3051 (内線 2803) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp
【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.narmed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

若きトップサイエンティストの挑戦(リサーチストーリー) vol.12 を掲載しています

(本学ホームページ) > 研究力向上支援センター > 若きトップサイエンティストの挑戦(リサーチストーリー)

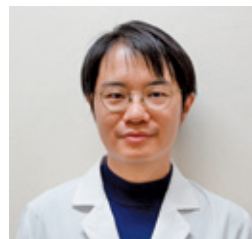
当シリーズでは本学で国際的に活躍されている若手の研究者の方々にお話を伺い、学内を始め広く学外にも紹介しています。

Vol.12では精神医学 博士研究員(ハートランドしぎさん こどものこころ診療センター 副センター長[論文発表時 奈良県立医科大学 精神医学 助教]) 岡崎康輔先生の論文「Discrimination in the clinical diagnosis between patients with schizophrenia and healthy controls using eye movement and cognitive functions.」[Psychiatry and Clinical Neurosciences]:「眼球運動と認知機能による統合失調症患者と健常者間の臨床診断における識別」を紹介しています。岡崎先生にインタビューさせていただき、論文の概要や、研究を進めてこられた動機、プロセス、今後の抱負などについてお話を伺いました。内容は、研究力向上支援センターのホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

研究力向上支援センターでは、この他にも様々な情報を発信しております。今後もメルマガ「科研費ニュース～Go for it! KAKEN～」や研究力向上支援センターの学内ホームページでご紹介をしていきますのでご期待ください。

記事ホームページは下記URLまたは二次元バーコードからご覧になれます。

URL: <https://www.naramed-u.ac.jp/university/kanrenshisetsu/crcd/interviewwakakitopbox.html>



精神医学 博士研究員
岡崎康輔先生



医学研究支援センターからのお知らせ

組換えDNA実験安全委員会講演会を開催しました

理化学研究所 バイオリソース研究センター 遺伝子材料開発室 三輪佳宏 先生に、「遺伝子実験における研究DX～今、遺伝子実験に関して知っておきたいこと～」と題し、遺伝子組換え実験を実施する際の拡散防止の考え方や、常に安全な組換え実験の実施を意識する大切さについて、11月24日に本学の実験者に対してご講演をいただきました。



理化学研究所 三輪佳宏先生

看護部の紹介

令和5年度 がん看護専門看護師認定試験合格にあたって

緩和ケアセンター
がん看護専門看護師 赤澤 奈那



私は、令和3年に大阪府立大学(現・大阪公立大学)大学院看護学研究科へ進学し、2年間のがん看護専門看護師教育課程を経て、この度、令和5年度の専門看護師認定試験に合格いたしました。認定試験の合格にあたって、入職時より私を育てて下さった先輩方、大学院進学の機会を下された関係者の皆様へ感謝申し上げます。がん看護専門看護師は、がん患者さんの身体的・精神的な苦痛を理解し、患者さんやその家族に対してQOL(生活の質)の視点に立った水準の高い看護を提供することが求められており、緩和ケアチームやがん患者さんとそのご家族への意思決定支援の活動を通して、その役割が担えるよう精進して参ります。

令和5年秋の叙勲受章

高橋 美雪(元看護部長)

この度、瑞宝双光章を賜りました。関係者の皆様の長年にわたるご指導ご支援に心より御礼申し上げます。

昭和53年春に附属看護専門学校に入学し、看護教員をはじめとする諸先生、多くの先輩方にご指導いただきながら看護を学び、苦しくつらい時にも同輩と励まし合い看護師免許を手にしたときの喜びは忘れません。そして高度先進医療を担う大学病院の看護師としての知識・技術の研鑽と看護の専門職者としての責任を自問自答しながら看護実践してきました。平成27年春に看護部長に就任し、更なる重責に葛藤の日々でしたが、常に支え協力してくれる部下がいて、見守ってくださる他職種の皆さんに助けられて責務を全うできたと感謝するとともに、看護業務功労で受章したことを誇りに思います。



「社会医学系専門医」について

医療情報部 部長・病院教授 玉本 哲郎

みなさんは、「社会医学系専門医」という専門医を知っていますか。2023年9月現在で、2992名が認定されている社会医学領域の専門医資格です。

社会医学は、人々の疾病を予防し健康を維持・増進するためにこれまで大きな役割を果たしてきています。また、臨床医学が病める個人へのアプローチを中心とするのに対し、社会医学は実践的な個人へのアプローチを有しながらも、広範な健康レベルを有する集団や社会システムへのアプローチを中心とする特徴があります。さらに、医学にとどまらず、科学全体やさらに経営管理等の人文系にわたる広範な学問体系を応用して理論と実践の両面から保健・医療・福祉・環境とそれらとの社会のあり方を追求する学問とされています。したがって、社会医学を担う上での専門性を維持・向上させるためには、社会医学領域の専門医制度を構築するべきであることから、2015年9月11日に関係学会・団体が協働して社会医学系専門医制度を構築し運営するために社会医学系専門医協議会を設立し、2016年12月5日に法人化されています¹⁾。関係学会・団体とは、8つの構成学会の日本衛生学会、日本医療情報学会、日本産業衛生学会、日本疫学会、日本公衆衛生学会、日本災害医学会、日本医療・病院管理学会、日本職業・災害医学会と、6つの構成団体の全国衛生部長会、全国保健所長会、地方衛生研究所全国協議会、全国衛生学公衆衛生学教育協議会、日本医師会、日本医学会連合となっています。

社会医学系専門医の使命は、医師としての使命感、倫理性、人権尊重の意識、公共への責任感を持ち、医学を基盤として保健・医療・福祉サービス、環境リスク管理および社会システムに関する広範囲の専門的知識・技術・能力を駆使し、人々の命と健康を守ることです。社会医学領域の専門医が基礎的能力の上にさらに領域固有の専門性を発揮して活躍する領域は以下の9領域を想定しているようです。1) 地域や国の保健・医療・福祉・環境行政に携わる人材。2) 環境衛生、衛生研究所・環境研究所等の研究に携わる人材。3) 感染症対策等に携わる人材。4) 産業衛生など職域集団の健康維持・増進を担う人材、産業医。5) 大学等で研究・教育を担い、地域や国の保健・医療・福祉・環境保全の活動、制度やシステムに携わる人材。6) 国際保健(コミュニティヘルス、国のシステム)に携わる人材(国際機関、NGO、コンサルタントなど)。7) 保健・医療・福祉などの組織管理、質・安全の管理、情報管理を担う人材、それらの評価・向上を担う人材、それらに関わる政策づくりに携わる人材。8) 保健・医療・福祉・環境分野における関連研究開発(臨床研究含む)と開発物の社会実装、およびその過程の制度的側面・倫理的側面の評価・支援・指導に携わる人材。9) 医療・健康の関連産業・企業等に関わる人材などです。

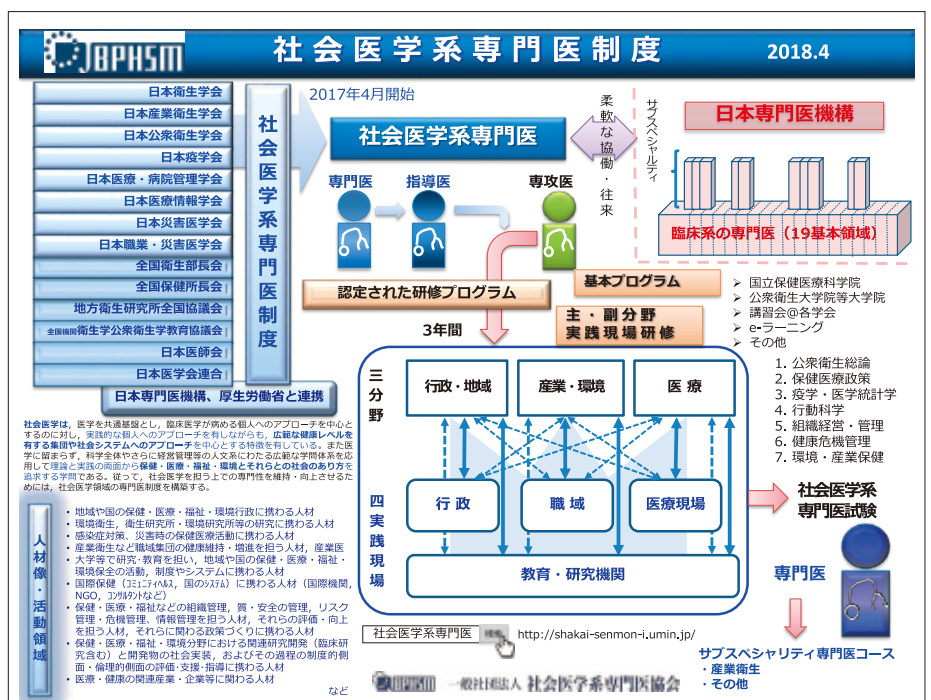
専門医になるためには、医師免許を取得後に、上記の鍵となる8学会のいずれかに所属し、

専攻医としての社会医学専門医のプログラムでの研修が必要となっています。具体的には、研修プログラムは、専攻医ごとに担当指導医を決め、専攻医マニュアルを用いて研修計画を作成し、プログラムに則り研修を開始します。3年間の研修期間において、2つの副分野各30時間を含む実践現場の学習と基本プログラムの受講、研究活動、自己学習を行います。最終的に、修了要件をプログラム管理委員会で認められれば、プログラム統括責任者が修了認定を行い、専攻医は専門医資格認定試験の受験資格を得ることができます。修了要件は、1つの主分野および2つの副分野における実践経験、各論的課題3項目以上の実践経験レポート、合計5件以上の作成、基本プログラムの履修・関連学会の学術大会等での発表または論文発表(筆頭者に限る)1件以上、専門研修実績記録システムへの必要な研修記録とフィードバックの実施の記録、担当指導医による専門研修の目標への到達の確認です。専門医資格認定試験は、① 受験年の4月1日時点で医師歴5年以上、② 臨床研修2年修了者、③ 専攻医の専門プログラム修了者に対して受験資格が与えられ、2023年はWeb形式で筆記試験と面接試験で行われ、合格者が専門医の登録が可能となっていました。

私自身は、この制度の創設時に医療情報学会から依頼を受け、経過措置で専門医・指導医の資格を取得しています。これから社会医学系専門医の取得される方への情報として、本学には「奈良県立医科大学社会医学系専門医研修プログラム」が存在し、公衆衛生学講座の今村教授が研修プログラム統括責任者をされています。現在、公衆衛生学講座と疫学・予防医学講座で専攻医の受け入れが可能です。興味のある医師の皆様は、上記の2講座に相談されてはいかがでしょうか。

参考資料

- 1) 社会医学系専門医協会 <http://shakai-senmon-i.umin.jp>



社会医学系専門医制度の概要 (1)より引用)

9.18

奈良県立医科大学 奈良健康フェア 2023を開催しました

イオンモール橿原の1階サンシャインコートとスターライトコートにて奈良県立医科大学 奈良健康フェア 2023「家族みんなで健康 LIFE !」を開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染状況の鎮静化に伴い、イベント会場を拡大しての開催となりました。10時～18時までの開催でしたが、約1200名の方々にご参加いただけました。

サンシャインコートでは、奈良県立医科大学医学科・看護学科の学生を中心に看護体験ブース、聴診・臓器エプロンブース、心臓マッサージ・AED体験ブース、ぬいぐるみ病院、クイズ大会、スタンプラリーなどを実施し、こどもたちに医療の体験をしていただきました。ステージ企画としてギター部の演奏や奈良県広域消防組合の皆さんによる「タスケルンジャーショー」(心臓マッサージ・AEDの普及活動を目的としたパフォーマンス)で会場に集まった大勢の観客を盛り上げていただきました。救急車を搬入しての救急車体験ブースや火災予防啓発ブース、救急車との記念撮影なども実施いただきました。会場横の大スクリーンで、難病克服支援 MBT 映画祭 (<https://mbt-filmfes.com/>) のご紹介や昨年度の MBT 映画祭入賞作品、また、オンラインでの奈良健康フェアの動画などを繰り返し放映させていただきました。

スターライトコートでは、医師・看護師による企画を実施しました。整形外科と理学療法士のチームで、下肢運動機能評価の評価として「立ち上がりテスト」や「2ステップテスト」を体験いただきました。救急科のチームでは、心肺蘇生の体験や119番通報訓練装置「119番かけるくん」の体験をしていただきました。麻酔科からは手術前から実施できるプレハビリテーションの紹介、臓器供意思表示ブースでは「意思表示カードとリーフレット」配布をさせていただきました。



10.11

臨床英語特別講座 “Academic English” を開講

本学とも関わりが深い、奈良先端科学技術大学院大学 (NIST) にて Academic English (学術英語) と学術出版を目的とした英語指導を専門とされている Leigh McDowell 准教授をお招きし、Academic English についてご教授いただきました。

臨床英語講座では、学年を通して AWL (Academic Word List) と呼ばれる幅広い学術文書に頻繁に登場する 570 語の英単語の取得や、学術論文を執筆する練習に特に注力しており、語彙力や英文法に特化した毎週のテストは勿論、通常クラスとは別に自由参加の多彩な 11 のアドバンスドクラスを設け、学生たちが普段から英語に慣れ親しむことで、英語力の向上に繋がるよう取り組んでおります。

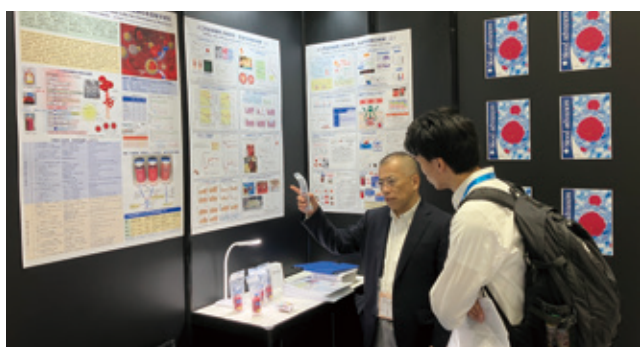
研究論文を数多く発表されている Academic English に精通した Leigh 氏の今回の特別講座は、学生たちがペアになり解答を導き出す参加型学習スタイルで、それには臨床英語講座と通ずるものがありました。AWL やアカデミック文法戦略をどのように取り入れるかに焦点を合わせることが、“客観性” や“論理性” が求められる学術論文の執筆を上達させるためのキーだと Leigh 氏から学びました。論文の基本的な構成要素だけではなく、具体的に学術的な文法を構築する戦略的思考について新たな知識を得たことは、これから先、学術論文を執筆する上で学生たちの自信に繋がっていくことでしょう。そして、臨床英語講座で学術的な英語コースを学びながら今回の特別講座を受講したことは、現学生たちすなわち将来の医師たちや研究者たちにとって、世界標準に通じる学術的な英語力の発信に役立つと信じております。



10.11
10.13 **ジャパンヘルスケアベンチャー
サミット 2023に出展しました**

パシフィコ横浜において、企業や大学等から創出された魅力的な研究成果の情報発信及び実用化に向けた産学連携を図ることを目的とした「ジャパンヘルスケアベンチャーサミット2023」が開催され、本学からは化学の酒井教授の研究シーズを出展しました。酒井教授による多数の聴講者に対するプレゼンや、企業等との名刺交換等、活発な産学官交流を行った結果、その後も情報交換等の機会を得られており、今後、これらの企業等とのマッチングに期待しています。

【出展シーズ】「備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤」



研究シーズの説明を行う酒井教授



プレゼンを行う酒井教授

10.14
10.15 **令和5年度奈良県立医科大学
白檀生祭を開催しました**

令和5年度 白檀生祭実行委員長 医学科5年 廣瀬 幹

今年度の白檀生祭では、本格的に新型コロナウイルス感染症の影響が薄まり、昨年度の二倍を超える来訪者の方々に楽しんでいただくことができました。奈良医大関係者も沢山の方々にお越しいただけたようで、大変嬉しく思っております。

その裏では、医学科5年、看護学科2年の学生をはじめ、今まで経験したことのない莫大な人数で力を合わせるが必要で、その経験はとても貴重でした。そして、その完成体ともいえる学祭で沢山の方々が楽しそうにいらっしやる光景を見て、チームで何かを達成することの素晴らしさを感じることができました。これから医療従事者になるべく学修していくなかでも、この度学んだ、チームで動くことの重要性を忘れずに邁進していきたいと思っております。

今年度の奈良県立医科大学白檀生祭を開催するにあたり、ご協力いただきました近隣の皆様方、ご多忙の中白檀生祭にご協賛くださった病院・企業・店舗各位、様々な形でご協力くださった教室、ご指導ご鞭撻くださった先生方・同窓会・かつて実行委員を務められていた先輩方に、この場をお借りして、白檀生祭実行委員一同より深く御礼申し上げます。



令和5年度 白檀生祭実行委員会

10.22 **奈良県防災総合訓練にMBTブースを出展しました**

2023年度の奈良県防災総合訓練は、山下真奈良県知事参加のもと、奈良県吉野町の吉野運動公園一帯で開催されました。

MBT コンソーシアム通信部会と奈良医大は、通信・防災事業会員6社（近鉄ケーブルネットワーク(株) (KCN)、(株)三技協、富士通 Japan (株)、(株)ミエルカ防災、(株)タカゾノ、MBT リンク(株)）と奈良先端科学技術大学院大学の支援を得てスターリンク通信を活用した災害現場の通信リカバーデモと防災関連商品・サービスの展示で参加しました。

展示ブースに立ち寄られた山下知事には、奈良医大の医学知識を基に約200社の会員と共に、産業創生やまちづくりを行っているMBTコンソーシアムの活動と、防災総合訓練に毎年参加して、会員の通信や防災関連の新技术、新商品を組み合わせた防災アイデアを奈良県防災関係者に提案していることを説明させていただきました。



山下知事への展示ブース概要説明の様子

同志社女子大学・奈良県立医科大学学術交流に関する包括協定に基づく合同講演会を開催しました

本学と同志社女子大学の共催による合同講演会を奈良県コンベンションセンター天平ホールにおいて開催しました。

当講演会は同志社女子大学と本学が毎年交互に開催しているもので、今回は「地域で`健康に暮らす、ためには」をテーマに、同志社女子大学看護学部・山縣恵美准教授より「アクティブシニアを維持するために～今日からはじめるフレイル予防～」と題して、本学地域医療学・赤井靖宏教授より「地域で自立した生活を続けるポイント～日々の生活で何をしたらよいのか～」と題して、それぞれ講演いただきました。

講演では、健康で自立した日常生活を送るための活動や食生活について、わかりやすく説明をいただき、楽しい講演会となりました。会場には、県内外から約 150 名の参加があり、テーマに関する関心の高さを伺うことができました。



講演会の様子



小島総務部長（同志社女子大学）による開会の挨拶



講演を行う山縣准教授



講演を行う赤井教授



嶋副学長による閉会の挨拶

奈良県立医科大学附属病院ならびに奈良県内全病院フルマッチ達成！

令和5年度医師臨床研修マッチング結果が発表されました。令和4年度マッチングにおいて本学附属病院研修医充足率が大きく低下したことから、今年度の結果が注目されましたが、今年度はおかげさまで2年ぶりにフルマッチ（全研修医定員が充足すること）を達成することができました。

まずは、医師臨床研修制度になじみのない皆様にマッチング制度について概説いたします。医師法第16条の2第1項には、「診療に従事しようとする医師は、臨床研修を受けなければならない。」と定められています。つまり、患者診療に携わる医師は、医師国家試験合格後に2年間の臨床研修を修了する必要があります。

学生が臨床研修病院を選択するためには、「医師臨床研修マッチング」という制度に参加する必要があります。マッチングとは、臨床研修を希望する学生と臨床研修を行う病院がお互いを順位付けし、「医師臨床研修マッチング協議会」にて定められている「アルゴリズム」という規則に基づいて研修医が研修を受ける病院が決定されるシステムです。

当院では、平成16年の新医師臨床研修制度発足以降、マッチング率は20%から70%台の時代が続きました。しかし、平成28年度に初めてフルマッチを達成して以来、高水準のマッチング率を維持してきました。しかし、令和4年度には数年ぶりに70%台に低下したことから、法人をあげて、研修医から要望が多かった当直室の個室化などに取り組んで参りました。今回のフルマッチは、このような法人全体

の支援がなければなしえなかった結果です。また、本学学生のみならず非常に多くの他大学医学部・医科大学の学生が当院に応募してくれたことも今回の結果につながったと考えています。マッチング者の内訳は奈良医大生6割強、他学生4割弱です。他学生の多くは、奈良県にゆかりがあるか関西圏出身の医学生です。他学生を安定的に確保することが今後も研修医確保の大きなポイントと考えられます。

本年度のマッチングにおいて、もうひとつうれしいことがありました。本学附属病院のみならず、奈良県内の全臨床研修病院が全てフルマッチになったのです。これは「全県フルマッチ」と言われますが、奈良県は2019年に続いて全県フルマッチを達成しました。全県フルマッチの達成は、平成16年の新医師臨床研修制度開始以来、奈良県だけが、しかも2回も達成したことになります。東京や大阪などの大都市圏に研修医は集まりがちですが、奈良県は臨床研修医確保において大健闘していると考えられます。研修医確保は地域の持続的医師確保に直結します。つまり、臨床研修を奈良県で行った研修医の多くがそのまま奈良県の病院で勤務し、奈良県の地域医療を支えることになるからです。

次年度からいよいよ働き方改革が施行されるなか、決められた研修時間でよりよき医師を養成することが重要と考えられます。院内の指導医の先生方をはじめ、近隣の医療機関の皆様におかれましては、「良き医療人」を育成するために、引き続き医師臨床研修制度へのご支援ならびに臨床研修医のご指導をお願い申し上げます。

10.27

湘南アイパークで MBTの講演を行いました

約 150 社、2000 人のテナントが集結する日本初の製薬企業発サイエンスパークの湘南アイパーク（神奈川県藤沢市）で、細井裕司理事長と 3 人の研究者が対面とオンラインで奈良医大の研究成果や MBT 活動を紹介する講演イベントが開催されました。奈良医大も湘南アイパークのアカデミア会員として登録参加しており、今回の機会を得たものです。

地方の単科医科大学があらゆる業種の企業約 200 社と共に行う MBT 活動や、奈良医大の研究内容、更にはベンチャー企業活動に興味を寄せるテナントらが参加し、活発な質疑も行われました。

講演 1. 「軟骨伝導の発見から MBT の発想へ」

本学 細井裕司理事長

講演 2. 「MBT による産業創生と地域貢献」

免疫学 伊藤利洋教授

講演 3. 「いよいよ全国へ！医学を基礎とするまちづくり
～スマートな“まち”の実現に向けて～」

MBT 研究所 梅田智広副所長

講演 4. 「分子を見て創薬する～大学発ベンチャーの挑戦～」

未来基礎医学 森英一朗准教授



細井理事長の講演

10.28

けいはんな映画劇場で MBT 映画祭の作品を上映しました

MBT 映画祭は、難病克服キャンペーンの一環で短編映画作品を通して難病理解を深め共助の心を醸成していただくことを狙いに実施しています。東京有楽町で開催した第 2 回 MBT 映画祭の入賞作品を京阪奈地域の皆様にも観覧していただくこと、けいはんな学研都市のけいはんなプラザで株式会社けいはんな（代表取締役社長：荒木康寛氏）のご支援を得て、無料上映会を実施しました。

秋晴れの好天にも恵まれ、約 80 人の参加者があり、短編映画 7 本を約 2 時間熱心に観覧いただきました。

上映に先立ち、MBT コンソーシアムの位置づけや活動内容、および MBT 難病克服キャンペーンの趣旨や映画祭の狙いを説明させていただきました。上映終了後に、“よい映画を見せていただきました”との激励もいただき、映画による啓発活動に手ごたえを感じる事ができました。



上映前の挨拶を行う事務局長



映画館入口

10.30
11.29
12.22

MBT 研究所運営会議を開催しました

MBT 研究所では、MBT 研究や取り組みの統合調整を図るため、月に一度、運営会議を開催しています。

運営会議では、企業と現在進行中の連携活動や共同研究などに関する進捗報告とともに「MBT 難病克服キャンペーン」の活動内容について議論しました。映像作品を通して多くの方に難病についての理解を深めていただけるよう努めてまいります。

また、2024 年 2 月設立の「高度生殖医療センター」を奈良不妊患者応援事業と位置づけ、クラウドファンディングやシンポジウムなど様々な支援活動を検討しております。

今後も MBT コンソーシアムと協力して日々情報収集や外部機関との検討を重ね、幅広い活動を通じて社会貢献を行ってまいります。

ご意見や提案等ございましたら、ぜひお聞かせください。



運営会議の様子

10.30

令和5年度第1回キャンパスミーティングを開催しました

第1回キャンパスミーティングを大学本部棟3階小会議室で開催しました。

今回は医学科4年生総代の岡田七海さんが司会進行を担当し、学生、大学双方の要望に関する意見交換や「プロフェッショナル宣言」の見直しについての意見交換を行いました。およそ1時間のミーティングには、医学科・看護学科各学年の総代と医学部長、看護学科長をはじめ各教育部長、広く学生支援に関わってくださる先生方、教育支援課・附属図書館職員が参加し、活発な意見交換が行われました。

11.1

本学医学科6年生今津君筆頭著者の論文がJournal of the American College of Surgeons誌に掲載されました

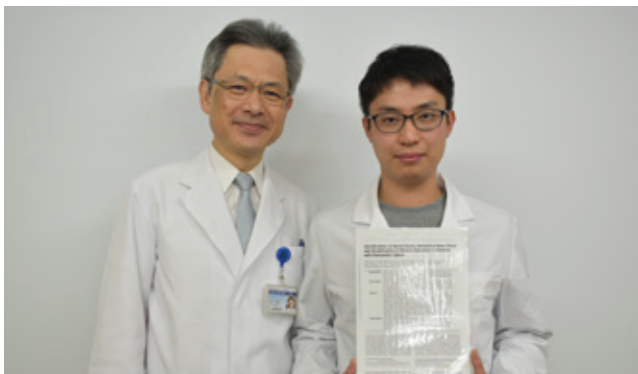
医学科6年 今津 勇輝

この度、筆頭著者論文“Identification of Nectin Family Interactive Gene Panel and Stratification of Clinical Outcomes in Patients with Pancreatic Cancer.”がJournal of the American College of Surgeons誌に掲載されました。本研究では従来よりも正確な膵癌術後予後予測を目指し、細胞間接着因子であるNectin family genesを用いた遺伝子パネルを開発しました。

ご指導賜りました庄雅之教授、西和田敏先生、共著者の先生方、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。卒業後も臨床を意識した基礎研究に取り組んで参りますので、ご指導のほど何卒よろしくお願いたします。

消化器・総合外科学 教授 庄 雅之

この度、医学科6年生今津勇輝君が筆頭著者である論文が、外科学一流誌であるJournal of the American College of Surgeons誌に掲載されました。本研究では膵癌におけるNectin Familyに関する新たなパネル検査を考案し、臨床上的有用性を多角的に証明しました。今津君は2年生の当教室でのリサーチクラークシップ以降も地道な研究活動を熱心に続け、多くの研究成果を発表してくれています。来年からの臨床研修、さらにはその後の医師としてのキャリアにも大きく生きるものと思います。今後は本学を代表する一人となって、国内外で活躍していくことを大いに期待しています。

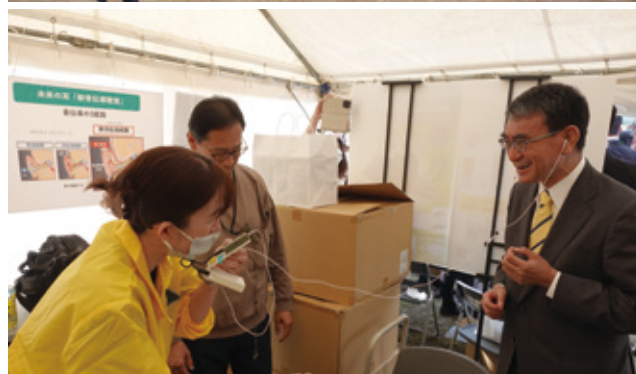
11.3
11.4

HANAZONO EXPOにMBTブースを出展しました

「いのち」がテーマの2025年開催大阪・関西万博を盛り上げる一環として、好天に恵まれた東大阪市の花園中央公園において、近郊の一般市民約10万人が参加する大賑わいのもと、「HANAZONO EXPO 2023」が開催されました。

奈良医大とMBTコンソーシアムは、この開催趣旨に賛同して、「未来の間こえ・健康技術の体験」と題し、軟骨伝導イヤホンなどのブース展示を行いました。また、奈良医大の医学知識を基に商品化された「手指機能強化手袋“にぎるくん”」と「銅合金蒸着マスク」の展示販売を実施しました。こちらも初めて見聞きする商品に興味を惹かれた人たちの購入が進み、MBTの新製品開発活動がPRできました。

11月4日(土)には、イベントを盛り上げるためにステージでのトークショーに駆け付けられた河野太郎デジタル大臣が、急遽奈良医大ブースに立ち寄り、集音器付き軟骨伝導イヤホンを体験され、騒音の中にも拘わらず小さな声も大きくクリアに聞くことができることに驚かれていました。



河野太郎デジタル大臣への軟骨伝導イヤホン説明の様子

11.9 当院臨床研修体制が JCEP (卒後臨床研修評価機構) の訪問調査を受けました

令和2年4月の臨床研修制度改革で、臨床研修基幹施設は「第三者による評価を受け、その結果を公表することが強く推奨される」とされました。当院では、将来的に外部評価が義務化されることを見据え、令和元年10月17日に卒後臨床研修評価機構(JCEP)による外部評価を受審し、同11月26日付けで認定されました。今年度が認定有効期限(4年間)であることから、11月9日に更新審査を受審しました。

審査は膨大な量の書面審査に始まり、続いて病院長、看護部長、事務長、臨床研修センター長他病院幹部との合同面接調査が実施されました。午後からは救急外来、総合診療科病棟、消化器外科・小児外科・乳腺外科病棟、中央臨床検査部、薬剤部、診療情報管理室、図書館、剖検室、研修医当直室等、非常に多くの部門を現場訪問して調査が行われました。

部署訪問の後は、研修医、指導医(医師)および指導者(看護師)へのインタビュー調査が行われ、一日を通して非常にタイトなスケジュールかつ大変厳しい審査となりました。

受審後の口頭での講評では、指導医の先生方の熱意や、きめ細やかな研修医への対応等のいわゆるソフト面について高い評価をいただいた一方、書類等の外形的な部分には多くの指摘がなされました。特に、研修医のインシデントレポート提出件数は、JCEPが求める基準と大きく乖離しています。もはや「指導」するだけではインシデントレポート提出数が増えないと考えておりますので、医療安全部門とも相談し、工夫を重ねていきたいと考えています。

今回の審査にあたりご協力いただきました皆様方、この場をお借りしてお礼申し上げますと共に、今後の当院初期臨床研修改善に向け、引き続きご協力くださいますよう、お願い申し上げます。



11.10 ~ 11.12 第68回日本口腔外科学会総会・学術大会を開催しました

口腔外科学 教授 桐田 忠昭

2023年11月10日から12日の日程で大阪国際会議場において、第68回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会を大会長として開催しました。メインテーマは「次世代への継承と新たな発展 Passing On Our Legacy, Breaking New Ground」であり、今までの先達の先生方が築きあげた数多くの功績を次世代へと確実に継承することを目指して開催させていただきました。おかげさまで参加者も6000名を超え、予想を上回る方々にご参加いただき盛会で終えることができました。



11.12 ~ 11.25 「女性に対する暴力をなくす運動」の啓発活動を実施しました

「女性に対する暴力をなくす運動」が、内閣府その他の男女共同参画推進本部構成府省庁の主唱により、毎年11月12日から11月25日(「女性に対する暴力撤廃国際日」)まで、全国で実施されています。本学では、女性研究者・医師支援センターが奈良県と協力し、今年度は「殴る・蹴るといった身体的暴力だけが暴力ではない」というメッセージと、配偶者等からの暴力(以下「DV」)及び性犯罪・性暴力の相談窓口の周知を図るため、今年度のポスターを大学構内8か所および病院内6か所に掲示しました。ポスターには、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターや内閣府DV相談ナビ等が明記されています。

女性研究者・医師支援センターでは、今後も教職員や学生が安心して働きがことのできる環境の整備に取り組んでいきたいと思っております。

心を傷つけることも暴力です。
ひとりでも抱えず、最初の一步を

DVや性暴力で悩んでいる方へ 年齢・性別をとわず、相談できます。

性犯罪・性暴力	配偶者・交際相手からの暴力
相談窓口 警察 110番 相談窓口 #8891	相談窓口 警察 110番 相談窓口 #8103

11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。

11.19
11.25

Nara Medical University Model United Nations Team Recognized as One of the World's Top 模擬国連世界大会ドイツ大会報告：2大会連続「優秀代表団賞」受賞

奈良医大模擬国連チームがまた新たな歴史を刻みました。11月に開催された模擬国連世界大会(NMUN: National Model United Nations)ドイツ大会に参加し、ニューヨーク大会に続いて2度目となる「Distinguished Delegation Award(優秀代表団賞)」を受賞したのです。

本学からは、竹下沙希(6年)と堀江風花(4年)が本チーム初挑戦となる安全保障理事会(Security Council)、福井優珠(3年)とレオナルド ボルスタッド(カンタベリー大学)が国連総会(General Assembly)、井口一歩(4年)と植村綾音(1年)が国連環境総会(United Nations Environment Assembly)に出場し、個人では井口と植村が、国連環境総会において「Outstanding Position Paper Award(優秀意見書賞)」を受賞しました。学生たちは朝早くからミーティングを開き、準備段階から全て英語で行い、時差や言語の壁を乗り越えながら共に健闘しました。

優秀代表団賞は大会中の積極性やプロフェッショナリズムなど多岐にわたって優れていると評価された上位10%のチームにのみ贈られ、優秀意見書賞は国連各種委員会において、大会前に提出された意見書の中でも特に優れている意見書を書いた大使団に贈られます。

模擬国連とは、国連総会や国連各種委員会を模したフォーラムです。学生には事前に担当する国と議題が与えられており、世界中から集まった学生達と英語だけで議論や交渉を行い、協力して解決案を探っていきます。模擬国連を通じて、学生たちの英語力が飛躍的に向上することはもちろん、国際的社會問題への理解が深まり、グローバルな交渉術が鍛えられます。

本大会では、Cultural Tours が企画されており、学生たちは第二次世界大戦において約24万人が収容された「ブーヘン

ヴァルト強制収容所」の跡地や、冷戦時代の東西の国境を跨ぐ「ポイントアルファ監視基地」の跡地などを訪れました。世界中の学生たちと交流を深めながら、ドイツの歴史や平和の大切さについて学んだ経験は私たちの記憶に深く刻み込まれました。

開会式前のフォーラムでは、チームの大使団長(Head Delegate)を務めた堀江が、スピーカーのひとりに選ばれました。このフォーラムは「Justice beyond Equality - Is the UN the answer?」というテーマで執り行われ、教育・世界平和・医療など、それぞれの分野においてボランティアや独自の活動を行っている学生ら4人が登壇し、スピーチとパネルディスカッションを行いました。堀江は自身の経験を基に、心肺蘇生(CPR)の重要性や講習の必要性について訴え、400人以上の観衆の前で訴えかけるような迫力溢れるスピーチを行いました。堀江のスピーチに心打たれ、涙する方々もいらっしゃいました。

奈良医大チームの大躍進はこれに留まりません。来春に開催されるニューヨーク大会では、本学からは5名の学生が大使団として出場予定です。また、竹下がボランティアスタッフの審査に合格し、国際連合教育科学文化機関(UNESCO: United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization)の理事補佐(Assistant Director)として模擬国連の進行・運営に携わります。

奈良医大模擬国連チームは、今大会での経験と受賞を糧に、今後さらに奈良医大の名を世界に轟かすことができるよう、励んでまいります。

臨床英語の先生方をはじめ、模擬国連活動にお力添えくださっている全ての方々に心より感謝申し上げます。今後も皆様の温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



11.14

株式会社三笠様からレッグウォーマー 4000足をいただきました

MBT コンソーシアム会員の株式会社三笠（本社：横浜市港南区）様より、本学の全職員に、感謝の意を込めて、自社製品のレッグウォーマー（商品名：ポケレグ）4000足の贈呈申し入れがあり、甘利茂伸代表取締役社長から細井裕司理事長・学長に目録が贈呈されました。

贈呈されたポケレグの内訳は、黒2500足、ベージュ500足、ネイビー500足、グレー500足となっています。

そして、全てのポケレグには、最前線に立ち県民の命と健康をまもる本学の医療従事者・関係者全員に感謝の意を込めたメッセージが添付されています。

第2の心臓といわれるレッグ（ふくらはぎ）を温め寒さを乗り切りご期待に応えたいと思います。



贈呈式の様子

11.21
11.22

「第3回 Challenge 万博『いのち 輝く未来社会』へ」に出展しました

Challenge 万博は、2025年大阪・関西万博を機に世界から注目を集める関西の主要な大学の優れたシーズやスタートアップを首都圏の大学、企業関係者に紹介するイベントです。

奈良医大とMBT コンソーシアムは昨年に続き本イベントに参加し、化学酒井教授の「備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究」のポスター展示と酒井教授による講演及び奈良医大発ベンチャー“MBT 微生物学研究所株式会社”（代表取締役：微生物感染症学 矢野教授）の紹介動画を放映し、『いのち輝く未来社会』に貢献する取り組みを紹介しました。



奈良医大展示ブース

11.21
11.22

よい仕事おこしフェアに 出展しました

先に奈良医大とMBT コンソーシアムが地域の活性化と産業振興に関し連携協定を締結したよい仕事おこしフェア実行委員会（事務局：城南信用金庫）が、東京ビッグサイトで「2023“よい仕事おこし”フェア」を開催しました。

全国各地の信用金庫のお取引先や多くのパイヤーも招聘され「よい仕事」をおこすビジネスマッチングイベントが政界や全国の自治体首长らの来賓も駆けつけ盛大に行われました。

展示会初参加の奈良医大とMBT コンソーシアムは、MBT活動をPRしました。

今回は商品化企業の支援を得て、

- 1) 細井裕司理事長が発見した軟骨伝導を活用した集音器付
キヤホンやヘッドホン
- 2) コロナウイルス不活化に有効な銅合金蒸着マスク
（協力：やまと真空工業株式会社）
- 3) 高齢者のフレイル予防等に有効な手指機能強化手袋
（協力：株式会社三笠）

の展示デモを行いました。

また、細井裕司理事長は「500年ぶりの発見『第3の聴覚・軟骨伝導』」と題し講演、奈良医大シーズをPRしました。

さらに、この機会に令和6年1月13日に開催を予定している第3回MBT映画祭への参加をチラシで呼びかけました。



奈良医大の展示ブース



軟骨伝導イヤホンの説明をする細井理事長

11.25 奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が第1回関西テックプランングランプリで基調講演を行いました

未来基礎医学 准教授 森 英一朗

株式会社リバネスが主催する「関西テックプランター」は、2025年に開催される大阪・関西万博に向け、関西圏の技術シーズ（ベンチャー）の発掘・育成を強化し、関西エリアにおいてベンチャーエコシステムの構築とインバウンドグローバルライゼーションを加速させる取り組みです。記念すべき第1回関西テックプランングランプリにおいて、奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が基調講演で、モルミル設立の経緯やコア技術を紹介しました。また、リバネスのコミュニケーターを始めとする様々な人々や機関の支援を受けて技術と事業を発展させてきた経緯や、創業時において「仲間を集める」ことの重要性について紹介しました。



11.27 研究結果を論文に出版しました

医学科5年 行天 ももこ

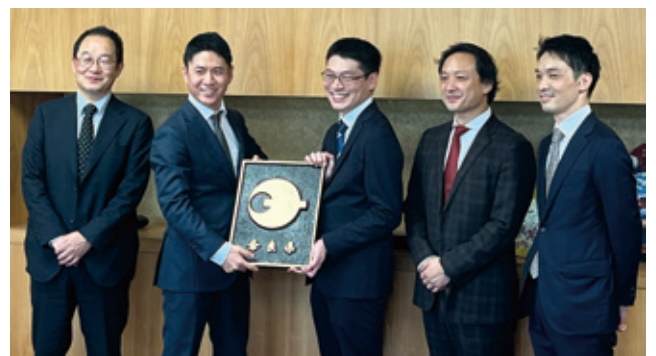
2年生の時から分子病理学教室で研究を行ってきました。今回、その成果を筆頭著者英文論文として発表することが出来ました。"Lovastatin treatment inducing apoptosis in human pancreatic cancer cells by inhibiting cholesterol rafts in plasma membrane and mitochondria" というタイトルで、International Journal of Molecular Sciences (27 November 2023, 24: 16814)に掲載されました。この研究で、私は高脂血症の治療薬であるスタチンが、がん細胞のコレステロール・ラフトを障害することによりアポトーシスを誘導し、抗腫瘍効果を示すことを明らかにしました。また、スタチンは薬剤耐性膵管癌細胞株の耐性を低下することが出来ました。これらの結果から、スタチンはがん治療の新たなツールとなることが期待されます。研究をご指導いただいた分子病理学教室の國安弘基教授に厚くお礼を申し上げます。



11.28 奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が奈良県庁を表敬訪問

未来基礎医学 准教授 森 英一朗

奈良県発スタートアップとして初受賞となった「バイオテックグランプリ 2023」最優秀賞の受賞報告に、奈良県庁の湯山 社一郎副知事を表敬訪問しました。バイオテックグランプリ主催者の株式会社リバネスの代表取締役・グループ CEO の丸幸 弘氏と、奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」の取締役・COO の山本政高氏、本学・血液内科学・輸血部教授の松本雅則先生（科学顧問）が同行しました。奈良から世界に向けて薬を提供していけるようになるため県との連携について意見交換を行いました。



11.28 医学部医学科「白衣授与式」を行いました

医学科4年生 105名の白衣授与式を、昨年に引き続き保護者同席で執り行いました。

初めに細井学長から医師としての将来展望について講話があり、その後、代表学生4名に「臨床実習生（医学）証」が手渡されました。

続いて、学長・医学部長・附属病院長・同窓会副会長からそれぞれに白衣が授与され、学生は医学科同窓会から寄贈された真新しい白衣に袖を通したのち、吉川附属病院長からの訓示、沢田同窓会副会長から激励のお言葉をいただきました。

最後に、学生を代表して総代の岡田七海さんが、これから始まる臨床実習で、真摯に実習に取り組み、医師としての自覚と責任を養っていくことを誓いました。



本学大講堂にて

11.30

第5回連携登録医のつどいを 厳樞会館で開催しました

今回は、新たな試みとしてWEBによるリアルタイム配信をおこないました。

第1部の講演会では、明日香村国民健康保険診療所 武田以知郎先生から「生老病死に寄り添う病診連携 ～映画『明日香に生きる』から～」と題して在宅医療の現場からの貴重なお話を映画の一部を交えてご講演いただきました。

続いて当院循環器内科 彦惣俊吾 教授より「心不全薬物治療のup to date」と題して心不全に対する最前線の治療方針についてわかりやすくお話しをいただきました。

第2部の情報交換会は、連携登録医制度の発足当初からのコンセプトである「顔の見える関係づくり」のきっかけとなるような短い時間ではあるものの、当院各診療科医師からそれぞれの診療科紹介を行い、参加の皆様と自由に歓談していただきました。

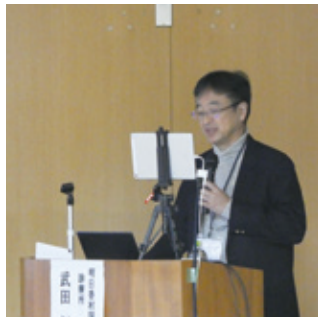
今後も地域連携・入退院支援センターでは連携登録医の方々と当院医師とでスムーズな地域連携をおこなうべく円滑な関係構築を目指して、「連携登録医のつどい」を定期的開催いたします。



講演会の様子



循環器内科 彦惣俊吾 教授



明日香村国民健康保険診療所
武田以知郎 所長

11.29

令和5年度奈良県立医科大学医学教育 フォーラム (FD) を開催しました

教育開発センターでは、FD (Faculty Development) 活動の取組として年間6～8回程度研修会や講演会を開催しています。

今回は、「シミュレーション教育について」をテーマに、教育支援課横田基次副主幹と循環器内科中川仁助教より学内の実践報告、大阪公立大学総合医学教育学教授首藤太一先生より「SSC (skills simulation center) での医療教育ー成功の鍵は、ハードよりハートー」についてご講演いただきました。

講演では、Skills Simulation Center (SSC) でのシミュレーション教育、さらには本邦医学教育のTOPICSとその実践について、大阪公立大学での取組などを交えてお話いただきました。

参加者の方々はメモを取りながら熱心に聴講されていました。次回のFD講演会は2月に開催を予定しています。



SSC (skills simulation center) での医療教育
ー成功の鍵は、ハードよりハートー



首藤太一 (しゅとうたいち)

大阪公立大学
大学院医学研究科
医学部医学科
医学部附属病院
副上
副上

総合医学教育学
医学科長-教務委員長
総合診療科部長
学術開発センター長
SSC長

2023/11/29
奈良県立医大FD講演会

12.2

西日本医学生学術フォーラム2023 でポスター発表しました

医学科5年 嶋田 里香

熊本で開催された西日本医学生学術フォーラム2023において、「レセプトデータベースを用いた骨粗鬆症治療薬と脆弱性骨折発生率の関連」という演題でポスター発表を行いました。本フォーラムは西日本の医学生が日頃の研究成果を発表し、互いに意見を交わし、親交を深める研究集会です。各分野の研究に取り組んでいる医学生たちとディスカッションし、多角的な視点で自分の研究を見つめ直すことができました。ご指導いただいた公衆衛生学講座の西岡祐一先生、今村知明先生はじめ共著者の先生方、専門的な観点からご助言いただいた糖尿病・内分泌内科学講座の高橋裕先生、またこのような貴重な機会を設けていただいた未来基礎医学講座の森英一郎先生、本当にありがとうございました。



12.6

人材交流在宅看護教育プログラムの履修証明書を授与しました

訪問看護師 2 名と附属病院看護師 2 名の計 4 名が「人材交流在宅看護教育プログラム」の全カリキュラムを修了し、小竹在宅看護学教授から、「履修証明書」が手渡されました。

このプログラムは、訪問看護師及び病院看護師を対象としており、在宅・病院における看護の実際を経験し、互いの現状理解を深めることで、在宅看護のリーダーを育成することを目的とした人材交流のプログラムです。

9 月 1 日からの 3 ヶ月間、講義や演習の他、訪問看護師は附属病院で、附属病院看護師は訪問看護ステーションで実践を重ねました。

今後、修了生がこのプログラムで得た知見をそれぞれの現場で活かすことにより、病院と訪問看護ステーション間の連携が強化されることを期待しています。



修了式の様子

12.13

高大連携教育を推進しています

本学では、高校生の理科に対する興味を高めるため、高校生を対象とした大学での講義、実習の体験学習を行っています。今回は、「DNA 解析実習—プラスミド DNA の制限酵素処理とアガロース電気泳動による解析—」をテーマにして、畝傍高校の生徒 18 名が参加しました。

生徒感想文から一部抜粋

- ・今まで使ったことがない実験器具を使うことに初めは慣れなかったけど、先生方が説明してくれたりして使いこなせるようになりました。最初はこんな難しい実験できるのかなと心配でしたが、成功してすごく嬉しかったです。とても楽しい時間でした！
- ・今回みたいな実験をするのはすごく貴重な事だったので、参加できてよかったです。知らない単語がたくさん出てきて、最初は混乱しましたが、実験を丁寧にわかりやすく進めてくれたおかげで、理解できたので最終的には楽しかったし、いい思い出になりました。



実習に参加した畝傍高校のみなさん

12.11

韓国世宗特別自治市との医療国際協力を協議

細井裕司理事長・学長が、韓国世宗特別自治市、国立忠南大学病院と医療協力を模索するため、世宗特別自治市を訪問し、崔旼鎬市長、権桂轍病院長と面談しました。

崔市長との面談では、高齢者向けの環境整備に資する医療機器技術の研究開発を重点とした協力について協議しました。面談後、細井学長が発見した軟骨伝導を活用した窓口用軟骨伝導イヤホンを贈呈し、同市庁舎の窓口で実演を行いました。

また、崔市長の面談に先立ち国立忠南大学を訪問し、権忠南大学病院長と、両機関間の医学関連研究、医療機器開発協力、交流による医療発展について協議しました。



窓口での軟骨伝導イヤホン実演後、細井学長と崔世宗特別自治市長



権忠南大学病院長と協議

12.14 奈良臨床漢方医学セミナー（耳鼻咽喉・頭頸部・口腔外科編）を開催しました

本学大和漢方医学薬学センターでは漢方診療の普及啓発活動の一環として、医療従事者を対象に奈良臨床漢方医学セミナーを開催しています。

本学口腔外科学講座 桐田教授の座長のもと、山口大学耳鼻咽喉科准教授の菅原一真先生が「めまい治療・口腔領域におけるトピックス」と題して特別講演を行いました。

菅原先生の講演では、放射性皮膚炎への黄耆建中湯（おうぎげんちゅうとう）の効果報告、ゼブラフィッシュを用いた動物実験の報告等がなされ、症例をあげながらの講演でとてもわかりやすく聞くことができました。

今後も漢方に関するセミナーを予定しております。開催の際は、一斉メール等でお知らせしますので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。



座長を務める本学 桐田教授



講演を行う山口大学 菅原先生

12.21 軟骨伝導イヤホンが韓国の自治体で採用されたことを知事に報告

細井理事長・学長は、韓国世宗特別自治市の洪萬杓海外協力官とともに県庁を訪問し、軟骨伝導イヤホンが韓国世宗特別自治市の窓口に設置されたことと、細井学長が2023年度「音の匠」に選出されたことを、山下真奈良県知事に報告しました。軟骨伝導イヤホンは、国内では全国約80の自治体や金融機関等の窓口で採用されていますが、海外で設置されたのは今回が初めてです。12月11日に世宗特別自治市を訪れた細井学長

が、崔政鎬市長に直接イヤホンを贈り、市の窓口に設置されました。

山下知事も軟骨伝導イヤホンを体験され、音質の良さに驚いておられました。



軟骨伝導イヤホンを装着する山下知事



山下知事、洪萬杓海外協力官、細井学長

12.19 12.20 イノベーションストリーム KANSAIに出展しました

「イノベーションストリーム KANSAI」は、うめきた2期地区開発プロジェクト「グラングリーン大阪」でめざましいイノベーション創出の取り組み紹介や発信に加え、登壇者、出展者、関係者、参加者とともにイノベーション創出機運を高める都市型カンファレンスで、グランフロント大阪北館のコングレコンベンションセンターで開催されました。

展示ブースでは、関西の大学や研究機関の最新の研究シーズや大学・研究機関発のスタートアップ企業の他、産学連携の取組や、うめきた2期のイノベーション創出テーマである「ライフデザイン・イノベーション」に関連した取組が紹介されました。

本学のブースでは、軟骨伝導イヤホンの展示と奈良医大発ベンチャー6社の紹介を行いました。また、19日は奈良医大発ベンチャーの1社であるモルミル株式会社の森 CEO（本学未来基礎医学准教授）がステージで「大学発ベンチャーの挑戦：奈良から世界へ」と題して講演を行いました。今後も積極的に奈良医大のPRを行っていききたいと思います。



本学の展示ブースの様子

12.22 本学の障害者雇用の取り組みが東洋経済オンラインに取り上げられました

本学の障害者雇用率は2.87%となっており、法定雇用率の2.6%を上回っています。2013年は1.28%しかありませんでしたが、2014年に知的障害のある人を5人雇用、2015年に人事課に障害者雇用推進係ができて、現在は33人が仕事をしています。その定着率は約9割を維持しています。

障害者雇用推進係長を経て、現在は奈良医大発ベンチャーMBT ジョブレオーネの代表取締役を務める岡山弘美氏が、障害のある係員と病院スタッフとの信頼関係を構築するための取り組みや、係員への寄り添い方等についてインタビューを受けました。

2024年4月から障害者の法定雇用率が段階的に引き上げられます。本学のノウハウが広がり、障害の有無にかかわらず働けるインクルーシブな職場が増えていくことが期待されます。

東洋経済 ONLINE :

<https://toyokeizai.net/articles/-/721794>

1.7 石川県へ派遣した附属病院DMATチームが帰還しました

令和6年1月1日に発生し、石川県をはじめとする北陸地方に大きな被害をもたらした令和6年能登半島地震に対応するため、附属病院では、1月4日(木)に高度救命救急センター長・福島英賢先生をリーダーとするDMATチーム(災害派遣医療チーム。医師1名、看護師2名、薬剤師1名、診療放射線技師1名の計5名で構成)を派遣しました。

当院より派遣したDMATチームは、石川県庁に設置された保健医療福祉調整本部(災害時、都道府県の保健・医療・福祉に係る総合調整を行う部門)に配属され、医薬品の供給の見込みや避難所の現状について情報収集する等、保健医療福祉調整

本部の活動を支援しました。

地震により陸路が寸断されたことに加え、降雪があったことも影響し、情報が極めて乏しい困難な現場でしたが、DMATチームの各隊員は、懸命に情報収集業務にあたり、1月7日(日)に無事帰院しました。

一方、避難所に多数の住民が避難しており、今後、衛生状態の悪化が懸念される等、被災地では今もなお厳しい状況が続いています。今後も被災地の動向を注視し、要請があり次第、ただちに医療チームを派遣できる体制を続けて参りますので、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。



出立式の様子(附属病院北玄関)



保健医療福祉調整本部でミーティングを行う様子(石川県庁)



避難所の情報を確認する福島センター長(石川県庁)



帰着式で記者からの質問に回答する様子(厳禰会館3階大ホール)

学報編集委員会からのお知らせ

✎ 寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関すること、お知らせ等を掲載するため、これらに関連する記事を広く募集しております。

掲載を希望する記事がある場合は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



Winner Report

9.2

第241回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞を受賞しました

消化器内科学 医員 菊池 真優子

この度、第241回日本内科学会近畿地方会において若手奨励賞を受賞いたしました。受賞演題は「腫瘍形成を伴った Killian-Jamieson 憩室内に発生した食道扁平上皮癌の一例」です。Killian-Jamieson 憩室は稀な食道憩室であり、癌の合併は過去に報告がなく、貴重な症例でありました。今回の発表に際しご指導いただきました吉治教授ならびに瓦谷講師をはじめ、多くの先生方に厚く御礼申し上げます。本受賞を励みに今後の日常臨床・研究に一層精進して参りたいと存じます。

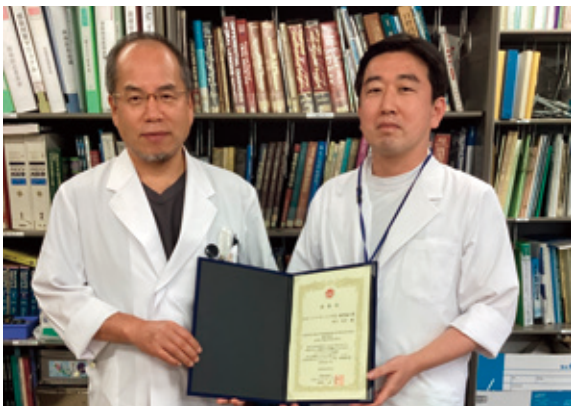


9.8

令和5年度ハイパーサーミア学会優秀論文賞を受賞しました

口腔外科学 助教 仲川 洋介

2023年9月8日～9日に開催された日本ハイパーサーミア学会第40回大会（神奈川県伊勢原市）において、同学会令和5年度優秀論文賞を受賞しました。対象論文の題名は「Alternative Role of Ubiquitination for Recovery from Heat Shock」であります。4年ぶり2度目の受賞であり、御指導いただきありがとうございます。口腔外科学講座の桐田忠昭教授、共同研究者の未来基礎医学・森英一朗先生に深く御礼申し上げます。今後も益々研究に励んで参りたいと思います。



9.9

令和5年度（第17回）加齢皮膚医学研究基金ロート賞を受賞しました

皮膚科学 講師 宮川 史

この度、研究課題“老化関連T細胞の血管免疫芽球性リンパ腫研究への応用”に対して、加齢皮膚医学研究基金ロート賞を賜りました。私は以前より免疫学の基礎研究に従事してきたこともあり、皮膚悪性リンパ腫に興味を持って外来診療を行ってきました。悪性リンパ腫は、腫瘍細胞が同じような形質を示しても予後が異なったり、経過中に形質が変化したりするなど不可解な事象が生じることが多々あります。以前より何とかこれを免疫学的に説明できないかと模索し、細々と論文発表も行ってきました。今回は、診断が難解なリンパ腫の一つである血管免疫芽球性リンパ腫の起源細胞を同定する試みを京都大学、京都府立医科大学と共同研究で行うことになり、助成金を申請したところ受賞に至りました。このような共同研究の機会を与えていただきました浅田教授に心から感謝申し上げます。



9.22

NeuroSpine Congress 2023にてLami Kim Young Soo Awardを受賞しました

脳神経外科学 学内講師 竹島 靖浩

2023年9月に韓国光州で開催されたNeuroSpine Congress 2023にてLami Kim Young Soo Awardを受賞いたしました。本賞は国際ジャーナルNeurospine誌のBest Papers Award of 2022に該当し、発表論文“Prevalence and Clinical Impact of Cervical Facet Joint Degeneration on Degenerative Cervical Myelopathy: A Novel Computed Tomography Classification Study”の責任著者として受賞しました。本研究は着想から約4年余り、その実際については紆余曲折がございましたが、途中より参加し本研究の進展に大きく貢献した当教室の岡本愛先生に、この場をお借りして感謝申し上げます。



9.23

奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が バイオテックグランプリ 2023で最優秀賞を受賞

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

株式会社リバナスが主催するバイオテックグランプリ 2023において、奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が「最優秀賞」及び「メタジェン賞」を受賞しました。この度は、歴史あるバイオテックグランプリで最優秀賞の評価を頂きましたこと、大変光栄に感じております。また、アラムナイのメタジェン代表・福田様から激励の言葉と企業賞を頂いたことは、バイオテック起業家のバトンを引き継いだのだと受け止めております。審査員の皆様からの評価と期待に恥じない様に、今後も成長していけるよう取り組んで参る所存です。

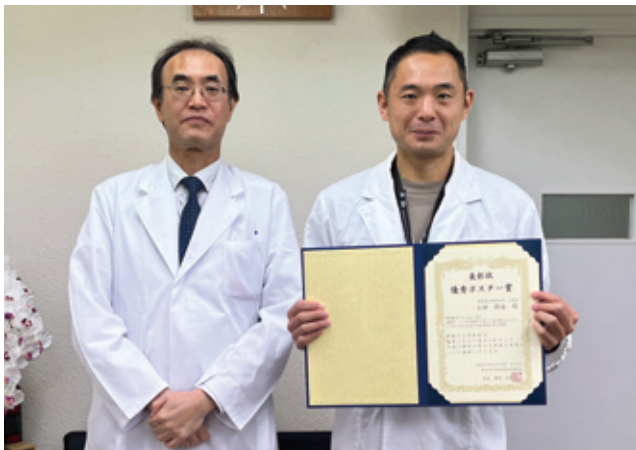


10.13

第 85 回日本血液学会学術集会以て 優秀ポスター賞に採択されました

小児科学 特任助教 小田 朗永

この度、2023年10月13日～15日に東京国際フォーラムで開催された第85回日本血液学会学術集会以て、演題名「ヒト化免疫系を有した血友病Aマウスモデルにおける抗FVIII免疫応答の誘導」が優秀ポスター賞に採択されました。このような大きな学会での受賞は、野上先生を始めとする小児科諸先生方からの行き届いたご指導のおかげです。今後の大きな励みとし、研究を更に進展させてまいります。

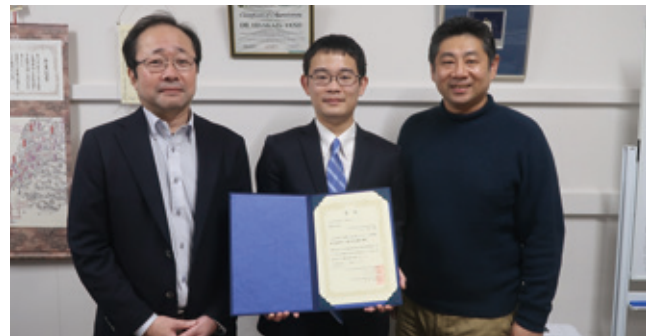


11.10

第93回日本感染症学会西日本地方学術集会・ 第71回日本化学療法学会西日本支部総会合同 学会の学部生セッションで優秀賞を受賞

医学科4年(微生物感染症学) 山口 晃一

第93回日本感染症学会西日本地方学術集会・第71回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会の学部生セッションにて、優秀賞を受賞しました。受賞演題は、「IMP-6 保有 CTX-M-2 グループ非保有株の細菌学的・遺伝学的特徴の解明」です。本研究は临床上重要なカルバペネム耐性菌の特徴を実験とゲノム構造解析により明らかにするというものです。今回の受賞を励みとして、今後も研究に励んでいく所存です。本発表にあたりご指導を賜りました矢野教授、中野准教授をはじめ、微生物感染症学講座の皆様方にお礼を申し上げます。



11.12

日本口腔外科学会総会・学術大会で 優秀ポスター発表賞を受賞しました

口腔外科学 学内講師 上田 順宏

2023年11月10日～12日に大阪国際会議場にて開催されました、第68回日本口腔外科学会総会・学術大会において、優秀ポスター発表賞を受賞しました。下顎切除後の再建手術において問題となる移植骨と残存骨との骨癒合不全にフォーカスし、リスク因子の解明と、その対策として当科で行っている骨接合法の工夫についての報告でした。臨床課題への対応について発表し選考頂いたことより、課題解決に向けてさらに考察を重ねる必要があると感じました。本手法を行うに際し、いつもご助言、ご助力いただいている整形外科の清水隆昌先生、河村健二先生をはじめとする手・マイクログループの先生方、そしてなにより口腔外科学講座、桐田忠昭教授に心より感謝申し上げます。



Winner Report

11.16

令和5年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました

奈良県医師会館において、令和5年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞式がありました。奈良県医師会学術奨励賞は、奈良県における若き医学徒の学術を奨励するために、大学卒業後12年以内であり、かつ有意義な研究成果をあげ、後進の指導にも熱意を有する者に奈良県医師会より贈呈される賞です。本学からは、下記の2名の先生方が受賞されました。

本学奨励賞は、毎年6月頃に応募案内を配布しております。若手研究者の方々の積極的なご応募をお待ちしております。

(受賞者)

血栓止血先端医学講座	特任助教	中島 由翔
産婦人科学	助教	三宅 龍太



中島特任助教



木村教授 (三宅助教代理)

11.18

第47回リザーバー & ポート研究会 特別賞受賞

中央放射線部 (IVRセンター) 看護師 堀田 あゆみ

2023年11月17日～18日に開催された第47回リザーバー&ポート研究会において特別賞を受賞しました。発表演題の「IVR看護師によるReMAPマニュアル作成の取り組み」は、放射線科の田中教授が考案された動注リザーバーの新しいデバイス「ReMAP」を用いた治療の際に、スタッフが困惑する事なく各患者様の治療内容を理解し、安全かつ円滑に治療介助ができるマニュアルを作成した発表となっています。

受賞に際しまして、ご指導いただきました田中利洋教授、松本武士先生、ご協力いただきました中央放射線部の山口師長およびスタッフの皆様に感謝申し上げます。



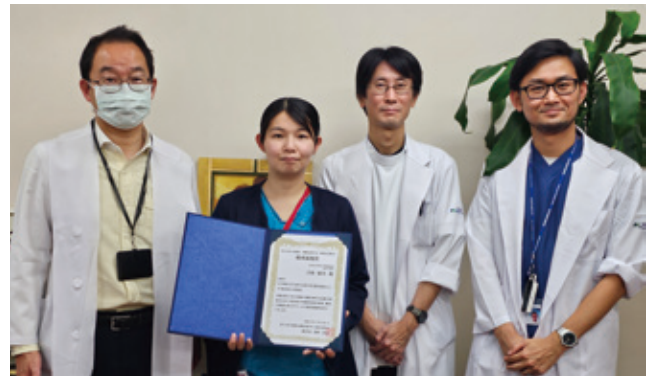
左より松本武士先生、堀田あゆみさん、田中利洋教授

11.18

第67回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会において優秀演題賞を受賞しました

看護部 中央手術部 看護主査 吉田 綾乃

第67回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会において、「前立腺癌に対するロボット支援下前立腺全摘術導入に伴う輸血療法の実態調査」を発表し、優秀演題賞を受賞いたしました。これを励みに今後も手術室看護師、臨床輸血看護師の二役を担い精進して参ります。本研究にあたり多大なるご指導を賜りました輸血部松本雅則教授、久保政之先生を始め、ご協力いただきました泌尿器科、麻酔科の皆さまに感謝申し上げます。



11.30

日本臨床神経生理学会で優秀論文賞を受賞しました

中央臨床検査部 臨床検査技師 宮林 知誉

このたび、日本臨床神経生理学会におきまして「術中運動誘発電位モニタリング開始におけるスガマデクス投与の有用性」の原著論文が、第25回優秀論文賞を受賞しました。内容は、外科手術において挿管を容易にする目的で投与される筋弛緩薬のロクロニウム効果をスガマデクスによって拮抗すると、運動誘発電位(MEP)の振幅が優位に増加し、スムーズな手術進行に寄与するというものです。川口昌彦教授、林浩伸先生をはじめ、研究の進行から論文執筆まで多くの先生方に御協力いただき受賞できました。今後とも術中神経モニタリングを担当する臨床検査技師としてできる研究や挑戦を続けていきたいと思っておりますので、以降ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

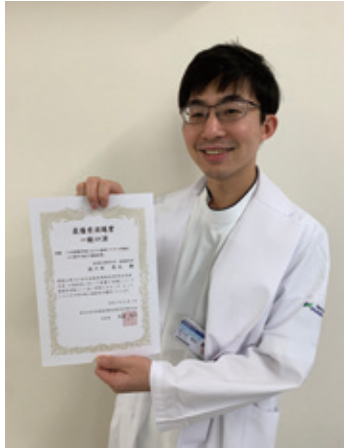


12.1

第53回日本臨床神経生理学会 学術大会で最優秀演題賞を受賞

脳神経外科学 大学院生 佐々木 亮太

11月30日から12月2日に開催された第53回日本臨床神経生理学会学術大会で、一般口演の最優秀演題賞に選ばれました。演題名は「小児開頭手術における陰部テタヌス刺激による術中MEP増幅効果」です。小児の術中運動機能モニタリングは極めて困難ですが、陰部テタヌス刺激という特殊な方法を追加する事で、従来よりも信頼性の高い運動機能モニタリングが可能となり、より安全な小児脳外科手術ができる事になると期待されます。



12.2

西日本医学生学術フォーラム2023ポスター部門で優秀賞、敢闘賞を受賞しました

熊本で開催された西日本医学生学術フォーラム2023において、医学科5年の坂部超大、嶋田里香、鈴木慧士、大上侑里子、3年の譲尾進之介、2年の和出陽南が参加し、口頭発表・ポスター発表を行いました。本フォーラムは西日本の医学生が日頃の研究成果を発表し、互いに意見を交わし、親交を深める研究集会です。中でも優秀な発表を行ったとして、ポスター部門にて坂部超大が優秀賞、鈴木慧士が敢闘賞を受賞しました。

本フォーラムを通して出会った、同年代で研究に取り組んでいる仲間たちとの繋がりは、今後も長く大切にしていきたいと思います。最後になりましたが、未来基礎医学講座の森英一朗先生、このような貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。



12.6

細井理事長・学長が一般社団法人日本オーディオ協会の「音の匠」に選出されました

細井裕司理事長・学長が、2023年度「音の匠」に選出されました。

「音の匠」は、一般社団法人日本オーディオ協会が、12月6日「音の日」に、音を通じて文化創造や社会貢献をされた方々を「音の匠」として顕彰しているもので、昨年度は、ピアニストの反田恭平氏が選ばれています。

気導、骨伝導に続く第3の聞こえとなる軟骨伝導を発見し、聞こえに関する新たな可能性を示したこと、また学会への発表に留まらず、音響機器への実用化にも注力し、人の役に立ちたいという信念を持ち続け活動を続けられていることが評価され、今回の受賞につながりました。

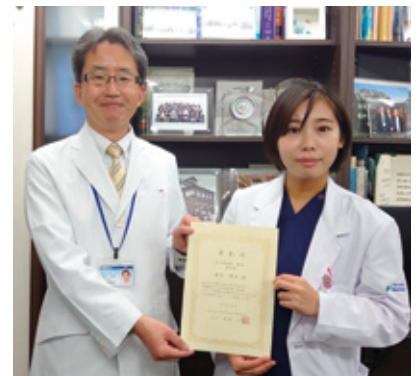


12.9

第242回日本内科学会近畿地方会で 若手奨励賞(優秀演題賞)を受賞しました

脳神経内科学 専攻医 濱田 華奈

千里ライフサイエンスセンターでのハイブリッド開催となった第242回日本内科学会近畿地方会における若手奨励賞セッション(口頭発表)で、本学脳神経内科学講座の濱田華奈専攻医が、演題「高安動脈炎の免疫治療中に可逆性後頭葉白質脳症(PRES) / 可逆性脳血管攣縮症候群(RCVS)を発症した1症例」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。高安動脈炎に起因して発症したPRES / RCVSの病態機序を考察する上で貴重な症例報告でした。今後の脳神経内科での修練の大きな励みとなり、さらなる飛躍を期待しています。



Winner Report

令和5年度 外部資金獲得状況

175件 576,063,593円（間接経費を含む）（令和5年12月1日現在） ※文部科学省科学研究費助成事業を除く

(1) 厚生労働科学研究費補助金

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
医薬品・医療機器等 レギュラトリーサイエンス政策研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	科学的エビデンス等に基づき医療環境に応じた適切な輸血療法実施についての研究
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	新型コロナウイルス感染症対策に取組む食品事業者における食品防御の推進のための研究
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	将来の医療需要を踏まえた外来及び在宅医療の提供体制の構築のための研究
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	保険収載されている医療技術の再評価方法を策定するための研究
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	レセプト情報・特定健診等情報を用いた医療保健事業・施設等のエビデンス構築等に資する研究
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究
厚生労働科学特別研究事業	附属病院薬剤部	部長	池田 和之	各国の電子処方箋の制度及び医療DXの実態把握のための研究

② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
エイズ対策政策研究事業	小児科学 リハビリテーション医学	教授	野上 恵嗣	HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究	公衆衛生学 野田 龍也
		講師	荻原 建一		
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	稲垣 有佐	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究	公衆衛生学 今村 知明
		准教授	野田 龍也		
		講師	明神 大也		
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	将来の医療需要を踏まえた外来及び在宅医療の提供体制の構築のための研究	公衆衛生学 今村 知明
		准教授	野田 龍也		
		講師	明神 大也		
		助教	西岡 祐一		
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	博士研究員	次橋 幸男	保険収載されている医療技術の再評価方法を策定するための研究	公衆衛生学 今村 知明
		助教	野田 龍也		
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	レセプト情報・特定健診等情報を用いた医療保健事業・施設等のエビデンス構築等に資する研究	公衆衛生学 今村 知明
		准教授	野田 龍也		
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	スモンに関する調査研究	鈴鹿病院 久留 聡
		医員	眞野 智生		
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	糖尿病の実態把握と発症予防・重症化予防のための研究	東京大学 山内 敏正
難治性疾患政策研究事業	糖尿病・内分泌内科学	教授	高橋 裕	成長障害・性分化疾患を伴う内分泌症候群（プラダウーイリ症候群・ヌーナン症候群を含む）の診療水準向上を目指す調査研究	大阪母子医療センター 川井 正信
難治性疾患政策研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	血液凝固異常症等に関する研究	金沢大学 森下 英理子
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患に関する調査研究	東北大学 青木 正志
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療専門職の実態把握に関する研究	東京医療保健大学 小野 孝二
	教育開発センター	特任講師	岡本 左和子		
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	適切な睡眠・休養促進に寄与する「新・健康づくりのための睡眠指針」と連動した行動・習慣改善ツール開発及び環境整備	国立精神・神経医療研究センター 栗山 健一
	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾		
政策科学総合研究事業 (統計情報総合研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	ICD-11の適用を通じて我が国の死因・疾病統計の向上を目指すため研究	摂南大学 小川 俊夫
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	臨床疫学に活用可能なNDB等データセットの作成に関する研究	京都大学医学部附属病院 森 由希子
		准教授	野田 龍也		
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	NDBの迅速提供に向けたスキーム再構築に資する研究	医療情報システム開発センター 山本 隆一
難治性疾患政策研究事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	森本 千裕	先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究	国立病院機構東京医療センター 松永 達雄
	眼科学	講師	西 智		
難治性疾患政策研究事業	糖尿病・内分泌内科学	教授	高橋 裕	間脳下垂体機能障害に関する調査研究	東京女子医科大学 大月 道夫
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門	助教	谷 有貴	ドナーミルクを必要とする児に普及するために必要なエビデンスを構築するための研究	昭和大学 水野 克己
難治性疾患政策研究事業	整形外科	准教授	谷口 晃	早老症のエビデンス集積を通じて診療の質と患者QOLを向上する全国研究	千葉大学 横手 幸太郎
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	HIV・エイズの早期治療実現に向けての研究	千葉大学 谷口 俊文

免疫・アレルギー疾患政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤及び評価基盤の構築	国立成育医療研究センター 森田 英明
難治性疾患政策研究事業	循環器内科学	教授	彦彦 俊吾	特発性心筋症の診断・ゲノム情報利活用に関する調査研究	大阪大学 坂田 泰史
難治性疾患政策研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	難治性血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究	順天堂大学 田村 直人
医薬品・医療機器等 レギュラトリーサイエンス政策研究事業	附属病院薬剤部	部長	池田 和之	医療機器等におけるより高度な医療安全のための バーコードの活用に関する研究	亀田医療大学 舟越 亮寛
難治性疾患政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	金沢大学 和田 隆志
エイズ対策政策研究事業	小児科学	教授	野上 恵嗣	HIV 感染症および血友病におけるチーム医療の構築と 医療水準の向上を目指した研究	大阪医療センター 渡邊 大
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	自己免疫疾患に関する調査研究	北海道大学 渥美 達也
肝炎等克服政策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝がん・重度肝硬変の医療水準と患者の QOL 向上等 に資する研究	東京大学 小池 和彦
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策 総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	予防・健康づくりのための住環境整備のための研究	北海道大学 林 基哉
難治性疾患政策研究事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	難治性聴覚障害に関する調査研究	信州大学 宇佐美 真一
がん対策推進総合研究事業	産婦人科学	教授	木村 文則	小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療におけ る心理社会的支援体制の構築と安全な長期検体保管体制 の構築を目指した研究-サイバーシップ向上を志向して	聖マリアノナ医科大学 鈴木 直
難治性疾患政策研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	新潟大学 阿部 理一郎
難治性疾患政策研究事業	泌尿器科学	准教授	鳥本 一匡	間質性膀胱炎の患者登録と診療ガイドラインに関する 研究	東京大学 本間 之夫
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	ドクターヘリの効果的な運用と安全管理に関する研究	東海大学 猪口 貞樹
健康安全・危機管理対策総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	保健所における健康危機管理対応の推進等に関する 研究	浜松医科大学 尾島 俊之
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策 総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	国や都道府県が循環器病対策に関する計画を策定する 際に利用可能な指標の設定、及び新型コロナウイルス 感染症による循環器病への影響の評価のための研究	大阪大学 岡田 佳榮
		准教授	野田 龍也		
	助教	西岡 祐一			
	教授	中川 一郎			
長寿科学政策研究事業	公衆衛生学	講師	山田 修一	医療および介護レセプトデータ分析による在宅医療・ 介護連携推進のための適正な評価指標等の提案のた めの研究	国立保健医療科学院 赤羽 学
		助教	西岡 祐一		
		博士研究員	次橋 幸男		
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	地域医療構想を踏まえた救急医療体制の充実に関する 研究	日本体育大学 横田 裕行
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合 研究事業	呼吸器内科学	教授	室 繁郎	慢性閉塞性肺疾患患者における加熱式たばこの経年 的な肺機能への影響に関する前向き観察研究	高知大学 横山 彰仁
慢性的痛み政策研究事業	ペインセンター	病院教授	渡邊 恵介	痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの 均てん化と診療データベースの活用による医療向上 を目指す研究	福島県立医科大学 矢吹 省司
新興・再興感染症及び予防接種政策 推進研究事業	感染症内科学	教授	笠原 敬	成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスのための研究	国立感染症研究所 明田 幸宏
新興・再興感染症及び予防接種政策 推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	新興・再興感染症のリスク評価とバイオテロを含めた 危機管理機能の実装のための研究	国立感染症研究所 齋藤 智也
新興・再興感染症及び予防接種政策 推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	新型コロナウイルスを含むコホート調査並びに副反 応シグナル全国調査	順天堂大学 伊藤 澄信
		准教授	野田 龍也		
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	公的に標準化された医療情報を活用した感染症流行 状況と一般診療状況を把握するための分析手法の開 発および評価方法に関する研究	藤田医科大学 佐藤 大介
		准教授	野田 龍也		
		講師	明神 大也		
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	特定機能病院の評価指標の開発に資する研究	独立行政法人国立病院機構 楠岡 英雄

(2) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
橋渡し研究プログラム	化学	教授	酒井 宏水	備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究
脳とこころの研究推進プログラム	未来基礎医学	准教授	森 英一朗	相分離破綻に起因する神経変性疾患に関する研究開発
脳とこころの研究推進プログラム	精神医学	学内講師	山室 和彦	前頭前野マイクロサーキット数理モデル構築によるニューロモジュレーション作 用機序の解明
難治性疾患実用化研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	抗 ADAMTS13 阻害抗体による後天性 von Willebrand 症候群の治療法の開発
革新的先端研究開発支援事業	精神医学	准教授	牧之段 学	早期ライフステージにおける前頭前野の髄鞘形成は社会性を制御するのか？
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	博士研究員	斎藤 能彦	世界最大劇症型心筋炎レジストリを用いた長期疫学調査及び予後予測モデルの開発
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝腎症候群の新たな病態解析と治療開発 - 血栓性微小血管障害に基づく機序と遺 伝子組み換え ADAMTS13 療法 -

Winner Report

障害者対策総合研究開発事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	慢性めまいの層別化治療と治療装置開発に関する研究
難治性疾患実用化研究事業	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	遺伝性神経変性疾患に関わる RNA 結合タンパク質のアミノ酸変異の相分離異常解析
難治性疾患実用化研究事業	第二生理学	講師	坂野 公彦	疾患モデルオンチップ血管網によるスタージ・ウェーバー症候群の異常脳血管の再現と病態解明
障害者対策総合研究開発事業	精神医学	助教	盛本 翼	統合失調症者に対するタブレットデバイスを用いたハイブリッド型認知機能リハビリテーションの効果検討に関するプロトコル開発
医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業	生化学	教授	中村 修平	Understanding tissue-specific regulation and function of autophagy for the prevention of age-related metabolic disorders
革新的先端研究開発支援事業ソロタイプ「マルチセンシングネットワークの統合的理解と制御機構の解明による革新的医療技術開発」研究開発領域	第二解剖学	講師	田中 達英	内臓痛の新規センシング機構の解明と治療法開発

②研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者	
橋渡し研究プログラム	血液内科学	教授	松本 雅則	Phase1 試験の結果を踏まえた Phase2 試験のプロトコル詳細の策定	化学 酒井 宏水	
	小児科学	教授	野上 恵嗣	人工赤血球製剤の流動条件下における血液止血凝固系への影響		
肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	ADAMTS13/vWF 二重欠損マウスの作製および phenotype の評価	消化器内科学 吉治 仁志	
	消化器内科学	准教授	赤羽 たけみ	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与の効果予測におけるレニン・アンジオテンシン系因子測定の有用性		
		講師 (寄附講座)	瓦谷 英人	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与によるエンドトキシン活性、MΦマーカーの動態変化解析		
		講師	鍛冶 孝祐	遺伝子改変マウスを用いた肝腎症候群の発症、病態における vWF/ADAMTS13 の役割解析		
		講師	浪崎 正	肝腎症候群に対するアルブミン製剤 + 遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 製剤による治療効果の検討 (医師主導治験)		
		学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証		
		助教	久保 貴裕	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与の効果予測における血管関連マーカー測定の有用性		
博士研究員	高谷 広章	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与の効果予測における血清 vWF/ADAMTS13 活性測定の有用性				
障害者対策総合研究開発事業	産学官連携推進センター	研究教授	梅田 智広	臨床研究用装置の実用化に関する研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 北原 紘	
	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	特任講師	和田 佳郎	臨床研究用装置の治療効果・層別化に関する研究		
	臨床研究センター	特任講師	井上 隆	臨床研究用装置の臨床統計に関する研究		
障害者対策総合研究開発事業	精神医学	准教授	牧之段 学	研究全体のモニタリングと助言	精神医学 盛本 翼	
		助教	大塚 紀朗	生物統計学の助言		
		博士研究員	松田 康裕	ハイブリッド型 VCAT-J トレーニングマニュアルの作成		
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	心筋生検の解析	循環器内科学 斎藤 能彦	
難治性疾患実用化研究事業				オールジャパン拡張型心筋症ゲノムコホート研究によるゲノム医療の発展		東京大学 野村 征太郎
難治性疾患実用化研究事業				小児から成人に移行する慢性心筋炎の診断基準策定のための実態調査		三重大学 今中 恭子
ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム				マルチオミックス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現		東京大学 小室 一成
ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム				循環器疾患におけるシングルセルマルチオミックス層別化の実現		東京大学 小室 一成
橋渡し研究プログラム				ナチュラルキラー T 細胞活性化による慢性炎症制御に基づく新たな心不全治療の実用化		国際医療福祉大学 筒井 裕之
難治性疾患実用化研究事業				難治性腎疾患の疾患・重症度分類の再定義に向けた研究開発		名古屋大学 丸山 彰一
難治性疾患実用化研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	植込型補助人工心臓装着予定患者を対象とした出血性合併症リスクの事前予測に基づいた個別化精密医療・最適化補助人工心臓治療の実現	東北大学 齋木 佳克	
難治性疾患実用化研究事業				高ずり応力を伴う循環器疾患に随伴する消化管血管異形成の形成・消退の実態解明		東北大学 堀内 久徳
難治性疾患実用化研究事業				肝硬変症に対するリハビリテーション医療の確立、筋肉再生-肝臓修復機構の解析を通じた新たなバイオマーカーの探索		新潟大学 寺井 崇二
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	インターフェロンフリー治療が C 型肝炎患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	大阪大学 竹原 徹郎	
肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業						

エイズ対策実用化研究事業	小児科学	教授	野上 恵嗣	HIV 関連病態である血友病の豊かな未来を目指した画期的治療法・診断法の創出	自治医科大学 大森 司
医薬品等規制調和・評価研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	薬剤性間質性肺炎および重症薬疹の新規診断バイオマーカーの適格性確認に関する研究	国立医薬品食品衛生研究所 荒川 憲昭
難治性疾患実用化研究事業				ステイーヴンス・ジョンソン症候群および中毒性表皮壊死症の新規重症度予測スコアの開発とガイドラインへの反映	新潟大学 濱 菜摘
難治性疾患実用化研究事業				SJS/TEN 眼後遺症の予後改善に向けた戦略的研究	京都府立医科大学 外園 千恵
脳とこころの研究推進プログラム精神・神経疾患メカニズム解明プロジェクト	精神医学	准教授	牧之段 学	免疫細胞による精神病理の操作を目指して	神戸大学 内匠 透
革新的先端研究開発支援事業				脳機能障害の malignant loop 抑制手法の開発	国立精神・神経医療研究センター 村松 里衣子
革新的先端研究開発支援事業				非神経細胞のストレスエンGRAMから読み解く心的フレイルの統合的理解と診断的治療への応用	九州大学 増田 隆博
障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野)				精神疾患レジストリの利活用による治療効果、転帰予測、新たな層別化に関する研究	国立精神・神経医療研究センター 中込 和幸
医工連携・人工知能実装研究事業				AI 技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発	国立精神・神経医療研究センター 橋本 亮太
臨床研究・治験推進研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	患者レジストリを活用した筋萎縮性側索硬化症治療薬開発のための第2相医師主導治験責任医師としての治験・臨床研究の実施	京都大学 井上 治久
難治性疾患実用化研究事業				臨床開発を目指したベッカー型筋ジストロフィーの自然歴調査研究	まつもと医療センター 中村 昭則
次世代がん医療加速化研究事業	免疫学	教授	伊藤 利洋	統合的複合がん免疫療法を目指した樹状細胞活性化アラミン、HMGN1 ペプチドに関する研究開発	東京理科大学 松島 綱治
革新的先端研究開発支援事業	生化学	教授	中村 修平	細胞内膜動態によるプロテオスタシス制御の理解：健康長寿の実現に向けて	大阪大学 吉森 保
エイズ対策実用化研究事業	健康管理センター	病院教授	古西 満	ART 早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究	国立国際医療研究センター 照屋 勝治
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	未来基礎医学	准教授	森 英一朗	細胞外マトリクスを介した血管リモデリング機構の解明と加齢変化の解析	国立循環器病研究センター 山城 義人
革新的がん医療実用化研究事業	臨床研究センター	講師	倉上 弘幸	生細胞染色 CTS (Click-to-sense) 法を用いた乳がんの乳房温存手術の切除断端に対する術中迅速診断の確立	大阪大学 多根井 智紀
予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業ヘルスケア社会実装基盤整備事業				Personal Life Record (PLR) と専門職の知見を組み合わせたヘルスケアサービスの社会実装を促進する研究プロセスとデザインのフローの可視化	大阪大学 山川 みやえ
革新的がん医療実用化研究事業	小児科学	講師	石原 卓	小児から成人をシームレスに対象とした B 前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する前方視的臨床試験による標準治療の開発研究	埼玉県立小児医療センター 康 勝好
成育疾患克服等総合研究事業	産婦人科学	講師	前川 亮	体外受精卵(胚)の着床率向上を目的とした胚のタイムラプス画像機械学習に基づく良好胚および正常核型胚スクリーニング法の開発	山口大学 杉野 法広
新興・再興感染症研究基盤創生事業(多分野融合研究領域)	免疫学	講師	北畠 正大	抗ウイルス機能に優れた T 細胞を誘導する人工 T 細胞抗原の開発	熊本大学 本園 千尋
成育疾患克服等総合研究事業	小児科学	助教	榊原 崇文	新生児低酸素性虚血性脳症の早期重症度診断法の開発	国立精神・神経医療研究センター 伊藤 雅之
難治性疾患実用化研究事業	未来基礎医学	助教	五十棲 規嘉	液-液相分離制御破綻に着目した筋萎縮性側索硬化症における運動ニューロン障害の分子病態解明に関する研究開発	徳島大学 齋尾 智英

(3) 国立研究開発法人 科学技術振興機構

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
戦略的創造研究推進事業 JST CREST	脳神経外科学	講師	田村 健太郎	脳表現空間インタラクション技術の創出	大阪大学 柳澤 琢史
戦略的創造研究推進事業 JST CREST	精神医学	博士研究員	岡崎 康輔	仮想エージェントによる個人適応された情動社会スキルの訓練	奈良先端科学技術大学院大学 中村 哲
研究成果展開事業 共創の場形成支援 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム JST-OPERA	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	安全な酸化剤による革新的な酸化反応活性化制御技術の創出に関する公立大学法人奈良県立医科大学による研究開発	大阪大学 井上 豪
戦略的創造研究推進事業 JST さきがけ	第一生理学	准教授	眞部 寛之	嗅皮質情報統合地図の構築とその応用	第一生理学 眞部 寛之
研究成果展開事業 共創の場形成支援 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム JST-OPERA	発生・再生医学	助教	長岡 創	卵子の「質」構築を理解し、再建へと繋げる次世代卵子学の創出	発生・再生医学 長岡 創

Winner Report

(4) 全国健康保険協会

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
外部有識者を活用した委託研究	公衆衛生学	教授	今村 知明	生活習慣病の疾病別医療費の地域差に関する研究	摂南大学 小川 俊夫

(5) 奈良県

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
奈良県研究開発支援事業	MBT 研究所	研究教授	細川 洋治	超音波ガイド下手術・手器具の開発事業

(6) 名張市

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業	脳神経外科学	博士研究員	中瀬 裕之	伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業

(7) 公益財団法人エイズ予防財団

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
エイズ中核拠点病院相談事業	感染症内科学	助教	福盛 達也	HIV 感染者等保健福祉相談事業

(8) その他 財団法人等

団体名等	所属	職名	氏名	研究課題名
公益財団法人 喫煙科学研究財団	精神医学	講師	鳥塚 通弘	社会性に影響するマイクログリア由来 BDNF へのニコチンの影響の解析
日本泌尿器科学会	泌尿器科学	講師	三宅 牧人	上部尿路癌における光干渉断層撮影の壁深達度診断精度に関する研究
一般財団法人 日本健康開発財団	疫学・予防医学	講師	田井 義彬	住環境温度・皮膚温・脈拍変動の連続測定データを用いた入浴事故予防法の開発
公益財団法人 武田科学振興財団	発生・再生医学	准教授	小林 久人	LTR レトロトランスポゾン介在型転写物の種間比較による種特異的インプリント遺伝子成立の起源の探索
公益財団法人 大阪難病研究財団	精神医学	助教	小森 崇史	孤立・孤独によってもたらされる精神症状の生物学的基盤解明および臨床的対応の検討
公益財団法人 大阪難病研究財団	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	阪上 雅治	多能性幹細胞から前庭有毛細胞の特異的分化誘導の試み—高度前庭障害の新規治療法の開発—
公益財団法人 武田科学振興財団	解剖学第二	講師	田中 達英	皮膚の感覚センシング機構の分子基盤の解明
公益財団法人 杜の都医学振興財団	感染症センター	医員	伊藤 渉	第三次医療機関において分離された ESBL 産生 Klebsiella pneumoniae の分子疫学的解析
花王健康科学研究会	生化学	教授	中村 修平	寿命延伸と生殖活動を両立する神経系オートファジー制御機構の解明
一般社団法人 日本血栓止血学会	輸血部	講師	酒井 和哉	日本人免疫原性血栓性血小板減少性紫斑病の発症に関与するアレル拘束性 T 細胞エピトープの同定及び抗原提示における免疫学的解析
一般社団法人 日本血栓止血学会	血栓止血分子病態学	助教	下西 成人	凝固第 V 因子軽鎖に存在する新規抗凝固機能の解明
一般社団法人 日本血栓止血学会	血栓止血先端医学	助教	三谷 成二	血友病 A 細胞治療に向けた高機能ヒト iPS 細胞由来肝臓洞内皮細胞の分化誘導技術開発
ジョンソンエンドジョンソン株式会社	産婦人科学	医員	前花 知果	組織因子経路インヒビター 2 による卵巣腫瘍の良悪性の鑑別
ジョンソンエンドジョンソン株式会社	整形外科	大学院生	西村 優輝	人工膝関節全置換術後の歩行動作解析、目標アライメント別による違い
加齢皮膚医学研究会	皮膚科学	講師	宮川 史	老化関連 T 細胞の血管免疫芽球形リンパ腫研究への応用
一般財団法人 日本血液学会	輸血部	講師	酒井 和哉	免疫原性血栓性血小板減少性紫斑病患者における ADAMTS13 の疾患感受性 HLA(DRB1 * 08:03) 拘束性 T 細胞エピトープ領域の固定
バイエル薬品(株)	血栓止血先端医学	助教	三谷 成二	多能性幹細胞を用いた組織特異的血管網を有する異所性肝組織の in vivo 構築と血友病 A 治療
公益財団法人 三菱財団	解剖学第二	講師	田中 達英	感覚センシングを制御する免疫細胞の動作原理解明
バイエル薬品(株)	循環器内科学	医員	野木 一孝	特定健診項目を用いた心不全早期診断アルゴリズムの開発
一般社団法人 日本血液学会	血栓止血先端医学	准教授	辰巳 公平	間葉系幹細胞が有する向凝固特性と血液との相互作用の解明
公益財団法人国際耳鼻咽喉科学振興会 2023 (令和 5) 年度 コストコ SPIO 研究助成金	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	准教授	西村 忠己	20 歳以下の症例での軟骨電動補聴器のフィッティング結果と公的支援
公益財団法人 三菱財団	発生・再生医学	准教授	小林 久人	種特異的なゲノム刷り込み遺伝子座に寄与するレトロトランスポゾン
公益財団法人 安田記念医学財団	生化学	教授	中村 修平	オートファジー活性の加齢変容に伴う発がん機構の解明
ファイザー株式会社	循環器内科学	講師	尾上 健児	心不全早期診断と専門医紹介を促進する地域医療連携体制の構築
公益財団法人 母子健康協会	生理学第二	講師	坂野 公彦	オンチップ血管網技術と、ゲノム編集による疾患特異的 iPS 細胞を用いた血管難病の病態解明
公益財団法人 先進医薬研究振興財団	精神医学	学内講師	山室 和彦	自閉スペクトラム症におけるメトフォルミンの先進的研究
公益信託康本徳守記念結節性硬化症関連神経難病研究基金	解剖学第一	教授	井上 浩一	結節性硬化症における Serum-and Glucocorticoid- inducible Kinase (SGK) シグナルの意義
日本イーライリリー株式会社	皮膚科学	特任助教	御守 里絵	分子標的治療薬による皮膚障害における表皮自然免疫応答の研究
公益財団法人 テルモ生命科学振興財団	血栓止血先端医学	助教	三谷 成二	幹細胞由来肝臓成細胞を用いた肝臓の in vivo 構築と血友病 A 治療

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。今号では令和5年10月～令和5年12月にご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。

【個人】

◆100万円以上

秋田 雅弘 様 大石 豊 様 齊藤 正幸 様
 坂本 光章 様 鈴木 秀和 様 辻本 達寛 様
 福井 正浩 様 善本英一郎 様

掲載を希望されない寄附者様 2名

◆30万円以上100万円未満

浅田 秀夫 様 油谷令尹子 様 生駒 一憲 様
 稲垣 有佐 様 笠原 正登 様 河村 健二 様
 菊川 政次 様 吉川 公彦 様 桑原 理充 様
 小林 浩 様 小山 文一 様 齊藤 弥穂 様
 嶋 緑倫 様 庄 雅之 様 城谷 敬子 様
 城谷 知彦 様 鈴木敬一郎 様 鈴木 秀夫 様
 武内 治郎 様 田中 利洋 様 鶴屋 和彦 様
 中垣 滋央 様 中森 孝文 様 橋本 浩 様
 畠山 金太 様 藤本 清秀 様 八木 正躬 様
 山上 裕章 様 山本 清誠 様

掲載を希望されない寄附者様 6名

◆10万円以上30万円未満

赤阪 祐二 様 浅田 潔 様 厚味 真二 様
 井内孝太郎 様 五十嵐稔子 様 泉 哲石 様
 伊藤 高広 様 伊藤 利洋 様 今村 知明 様
 岩田栄一郎 様 岩田 正人 様 植村 信子 様
 上山 健一 様 江里口雅裕 様 岡本 忠幸 様
 小川 宗宏 様 粕田 承吾 様 金森 正明 様
 川口 昌彦 様 岸田 勇人 様 北原 紘 様
 城戸 顕 様 榊原 崇文 様 須崎 康恵 様
 武内 真有 様 竹邑 利文 様 田邊 香 様
 中島 英彦 様 橋本 俊雄 様 坂野 公彦 様
 福山由美子 様 松井 一哲 様 松原 庄一 様
 峯 克彰 様 宮武 聡子 様 村尾 佳則 様
 室 繁郎 様 山川 延宏 様 山田千賀子 様
 吉矢 和彦 様 若月 幸平 様

掲載を希望されない寄附者様 19名

◆10万円未満

浅井 達哉 様 浅川 勇雄 様 井内 清美 様
 礪橋 文明 様 大上 幸宏 様 小川 佳宏 様
 角谷 勇一 様 狩山 純子 様 川島 浩正 様
 北村 紀文 様 小竹久実子 様 児玉 浩明 様
 小林 恭代 様 阪田 晃 様 佐藤 慎哉 様
 武内 克郎 様 西澤 秀美 様 西村 忠己 様
 浜崎 直樹 様 松平 崇 様 宮下幸一郎 様

掲載を希望されない寄附者様 43名

◆金額の公表を希望されない寄附者様

天野 雄介 様 石指 宏通 様 五十川雅裕 様
 井上 毅 様 裏山 悟司 様 太田 一郎 様
 大東 鈴穂 様 面川 庄平 様 鍛冶 孝祐 様
 北畠 正大 様 桐田 忠昭 様 桐山 敬生 様
 齋藤 昌宏 様 杉山 友悦 様 高濱 潤子 様
 高濱 誠 様 竹川 隆 様 中野 利夫 様
 長村 徹 様 橋爪 隆 様 林 満博 様
 平井都始子 様 松本 雅則 様 三浦 太士 様
 美登路 昭 様 森本 賢吾 様 藪本 明広 様
 山中富美男 様 山室 和彦 様 吉岡 徹 様
 吉川真由美 様 吉治 仁志 様

【奈良県立医科大学 総務広報課】

TEL : 0744-22-3051 (内線 : 2803)

E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】

<https://hiyakukikin.narmed-u.ac.jp>

または「未来への飛躍基金」で検索！



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2023年			
7月1日	日本診療放射線技師会誌	教育開発センター	特任講師 岡本左和子 医師の働き方改革に関する研究班の視察による米国の状況④ 米国において医師からタスクシフトを担う医療職能：ラジオロジスト・アシスタント (Radiologist Assistant : RA) の実際
10月28日	日刊ゲンダイ	臨床病態医学	教授 山内 英雄 睡眠時無呼吸症候群 最新治療ならCPAPが合わない人も続けられる
11月2日	奈良新聞 創刊記念 第2特集		「新キャンパス」整備 2025年度にオープン 最新・最高の教育・研究・診療施設「良き医療人」育成へ
11月15日	東京新聞 夕刊 すこやかゼミ	臨床病態医学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授 山内 英雄 病院教授 上村 裕和 睡眠時無呼吸に新治療法 電気で刺激 気道確保患者の満足度高く新機も複数
11月29日	中日新聞 朝刊	精神医学	教授 岡田 俊 チック症の一つであるトゥレット症の症状と周囲の理解の重要性について解説した
11月29日	東京新聞 朝刊		
12月4日	NHK 奈良 ならナビ		理事長・学長 細井 裕司 県立医科大学が中心となって取り組んでいるMBTについて、細井理事長・学長へのインタビューを通して内容や展望を探る
12月7日	日経電子版	未来基礎医学	准教授 森 英一郎 奈良医大発モルミル、バイオ分野のビジコンで最優秀賞
12月9日	日経新聞	未来基礎医学	准教授 森 英一郎 奈良医大発の新興、最優秀賞
12月9日	朝日新聞	未来基礎医学	准教授 森 英一郎 起業コン最優秀「奈良から薬を」
12月11日 ～12月15日	KCNファミリーチャンネル(地デジ11ch) 大切な脳と心臓を守ろう!! 「脳と心臓の病気について」	脳神経内科学 脳神経外科学 循環器内科学	教授 杉江 和馬 教授 中川 一郎 教授 彦惣 俊吾 脳卒中に対する内科治療について 脳卒中に対する外科治療について 心臓病ってどんな病気？—その病態と治療について—
12月18日 ～12月22日	KCNファミリーチャンネル(地デジ11ch) 大切な脳と心臓を守ろう!! 「総合支援センターモデル事業について」	脳神経内科学 脳神経外科学	教授 杉江 和馬 講師 山田 修一 脳卒中になってしまったその先の支援について 脳卒中後の支援について
12月20日	電波新聞		名誉教授 齋藤 能彦 奈良県の心臓病患者への支援について
12月22日	東洋経済ONLINE		理事長・学長 細井 裕司 500年ぶりの発見「第3の聞こえ」軟骨伝導の将来性 障害者雇用「5人→10年で33人」奈良医大の大改革
12月23日	朝日新聞デジタル	公衆衛生学	教授 今村 知明 墓じまいして散骨、メタバース霊園で子孫と「会話」も？ 変わる弔い
12月24日	毎日新聞		理事長・学長 細井 裕司 軟骨伝導イヤホン海外へ 県立医科大開発 韓国の自治体で採用
12月19日	上毛新聞	公衆衛生学	教授 今村 知明 「冷凍食品農薬混入事件から10年 食の安全理念共有を」事件で第三者検証委員長を務めた今村教授のコメントが掲載
2024年			
1月6日	奈良新聞		理事長・学長 細井 裕司 一医学知識 まちづくりに活用を—「MBT」を提唱 企業の力と医学融合 新産業創出へ活用を
1月7日	奈良テレビ TVNニュース		能登半島地震 県立医大のDMATが帰着
1月8日	朝日新聞		能登半島地震 現地派遣医師ら帰着 感染症対策が重要に 救援物資分配に課題
1月8日	奈良新聞		能登地震 DMAT活動報告「避難所 パンク状態」 能登半島地震 県立医大病院DMATの5人帰県 「全容把握できず」
1月9日	毎日新聞		
1月12日	PRESIDENT 2024年2月2日号	疫学・予防医学	特任准教授 大林 賢史 照明環境が健康に及ぼす影響について解説
1月16日	毎日新聞		モードの“バランス”医療にも コシノジュンコさんMBT 特命教授に 県立医大が任命
1月17日	産経新聞		「患者の気持ちくむセンス磨いて」 県立医大 コシノジュンコさん、特命教授に
1月18日	奈良新聞		患者の苦境に理解を 難病克服支援MBT映画祭 県立医大など東京で表彰式
1月18日	朝日新聞	公衆衛生学	教授 今村 知明 自然に還る 変わる葬送のかたち2 墓じまい 墓の継承者のシミュレーションに関してコメント
1月18日	FMヤマト MBT Good Job !レオーネ♡	MBTジョブレオーネ	代表取締役 岡山 弘美 障がいのある職員の支援で培われたノウハウを ヒントに楽しい職場作りを目指していく応援番組
1月20日	日本経済新聞		奈良医大の特命教授 コシノジュンコさん就任
1月25日	奈良新聞		日赤県支部 心身のケアに従事 救護班第2班 (奈良医大附属病院)を派遣

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

編集後記

皆様のご協力により第87号学報を発行することができました。ご協力、ご支援いただいたみなさまに深く感謝いたします。学報では、教職員の皆様からの記事を随時募集しています、記事掲載を希望される方は総務広報課までご連絡ください。

